九州大学経済学部 同窓会報 第75号

九州大学経済学部同窓会
事務局　〒819－0395
福岡市西区元岡744
　九州大学経済学部内
TEL 092-802-5561 FAX 092-802-5560
mail：dosokai@econ.kyushu-u.ac.jp
郵便振替　01750－6－21743

目　次

令和５・６年度行事予定（総会のご案内）／１
同窓会長就任にあたって　道永　幸典（昭和56年卒）／２
同窓会長退任にあたって　貫　正義（昭和43年卒）／２
支部だより
東京支部　事務局長　大坪　勇二（昭和63年卒）／３
関西支部　事務局長　谷村　信彦（平成3年卒）／６
福岡支部　福岡支部事務局／７
福岡支部交流ゴルフ会、第72回コンペを開催！
～５月14日（日）伊都ゴルフ倶楽部
堀　芳郎（平成元年卒）／８
一読千金
経済学研究院准教授　前田真一郎（平成4年卒）／９
リレー随想
２つの質問　小城　武彦／10
西鉄時代40年間を振りかえって
藤田　靖英（昭和58年卒）／12
経済学部の思い出　早崎　栄一（昭和58年卒）／13
ＥＶシフトと産業革命　井上　久男（昭和63年文学部卒）／15
台湾の大学の課題と対策について
詹　錦宏（昭和63年卒）／17
福岡における会計専門職育成の取り組み
－九大経済の学びとつながりを活かして－
原口　健太郎（平成28年博士入）／18
ターニングポイント
佐潟　直弥（平成22年卒・平成24年修士修了）／20
タイへの交換留学から振り返る　九大への感謝
西原　貴史（平成26年卒）／22
社会人としての第一歩　金　宇ソク（平成30年卒）／24
人物往来　～新教員紹介／25
国際学術交流振興基金執行状況報告
国際交流委員長　瀧本　太郎／26
決算報告／27
卒業生就職状況／28
同窓会役員名簿／29
経済学部同窓会 創立50周年記念寄付金／31
同窓会歴代会長／32
同窓会からのお願い／32

令和５・６年度行事予定（総会のご案内）

令和５・６年度の各支部総会を下記の通り予定しております。皆様、お誘い合わせの上、多数ご参集下さいますようご案内申し上げます。

令和５年度　広島地区九大法・経同窓会総会

日時　令和５年12月３日（日）夕方（時間未定）
場所　シェラトングランドホテル広島
（広島市東区若草町12－１　TEL（082）262－7111）
<お問い合わせ先>
広島地区九大法・経同窓会事務局　藤森　誠
TEL（080）9958－2176
E-mail　278828@pnet.energia.co.jp

令和６年度　関西支部総会

日時　令和６年５月18日（土）15時～
場所　ハートンホテル北梅田
（大阪市北区豊崎３－12－10　TEL（06）6377－0810）
<お問い合わせ先>　関西支部事務局　谷村　信彦
TEL（090）6678－6754
E-mail　nobuhikotanimura１@gmail.com

令和６年度　全国・福岡支部合同総会

日時　令和６年６月　開催予定
場所　未定
<お問い合わせ先>　福岡支部事務局　国生、縄田
公益財団法人 九州経済調査協会内
TEL（092）721－4900
E-mail　soumu-02@kerc.or.jp

令和６年度　東京支部総会

日時　令和６年７月５日（金）18時～
場所　学士会館　210号室
（東京都千代田区神田錦町３－28　TEL（03）3292－5936）
<お問い合わせ先>　東京支部事務局　大坪　勇二
TEL（090）1690－8989
E-mail　otsubo@shigoto-pro.com

新会長就任挨拶　同窓会長就任にあたって

第12代同窓会長
道永　幸典氏
（西部ガスホールディングス株式会社 社長）
1981（昭和56）年卒

この度、第12代同窓会長に就任いたしました西部ガスホールディングスの道永でございます。西部ガスの出身者としては、第９代の平山会長以来となります。前任の貫会長を始め、これまで会長を務めてこられた重鎮の先輩方のご尽力により、今日まで同窓会は発展してきました。光栄に思うと同時に重責に感じておりますが、折角いただいた機会ですので精一杯務めさせていただきます。

私は、昭和32（1957）年、筑紫野市に生を受け、県立筑紫丘高校から１年間の浪人を経て九大経済学部に入学しました。私の高校からは、当時100人超の同級生が九大に進学していました。つまり４人に１人は九大生だったのです。正直、大志を抱いて入学した訳ではなく、流れのままに入学したというのが実情です。味気ない話になってしまいましたが、それなりに学生生活を楽しみ、それなりに苦労もして留年することもなく無事卒業いたしました。

大学卒業後は西部ガスに入社し、社長就任後の令和元（2019）年から福岡支部の副支部長という形で経済学部同窓会に関わってきました。同窓会福岡支部の活動は、貫前会長のリーダーシップの下、大いに活性化しました。ゴルフコンペは毎回50名以上の参加者で活況を呈していますし、忘年会も大々的に開催されるようになっています。私も西部ガスから多くの後輩たちを率いて、積極的に参加してきました。今後も同窓生の皆さんと一緒に、盛り上げていければと思っています。

さて、今年の九州・福岡の経済情勢は、新型コロナが５月に５類に移行されてから回復傾向が続きました。街中でインバウンドの姿を数多く見かけるようになりましたし、博多どんたく、博多祇園山笠の通常開催、世界水泳、ツール・ド・九州などの効果もあり、消費や観光も活気を取り戻してきました。TSMCの熊本進出が決まってからは、半導体関連企業の設備投資が次々と発表されるなど､今後の九州･福岡の発展にますます期待が高まっています。

九州大学は来年、法文学部創立100周年を迎えます。また、経済学部同窓会も令和７（2025）年に創立から50周年となります。大きな節目を迎え、大学と同窓会の連携をさらに強化して、地域に貢献できる活動を行っていきたいと考えています。皆さまのご支援ご指導をよろしくお願い申し上げます。

前会長退任挨拶　同窓会長退任にあたって

第11代同窓会長
貫　正義氏
（九州電力株式会社 相談役）
1968（昭和43）年卒

平成26年７月に、アサヒビールの池田先輩から会長職を引き継ぎ、その後、記憶に残る仕事は何もしないまま３期９年が過ぎ、本年７月に、西部ガス社長の道永さんという素晴らしい後輩に、同窓会長をバトンタッチさせていただきました。

私は会長就任時には、九州大学とその卒業生が担う役割として、道州制の検討推進、スタートアップのバックアップ、さらには電力システム改革に対応した電力安定供給確保への取組み等、大変大きな課題を掲げたことを記憶しております。

しかしながら、特にこの最後の３年間については、コロナ禍の全世界への拡大に加え、ロシアのウクライナ侵攻に伴うエネルギー価格の高騰と量的な不足、さらにはサプライチェーンの分断等による世界の生産活動の混乱等、これまで考えられなかったことが、次々と現実のものとなり、さらには自然災害の激甚化と多発も相まって、2050年カーボンニュートラル

に向けた動きが加速化されてまいりました。

とりわけ私にとってショックだったのは、電力システム改革の負の部分が現実のものとなり、九州電力がお客様に販売する電力が不足し、母校九州大学が公募した入札への応募どころか、標準メニュー（定価）での電力供給の申し入れをもお断りし、最終保障約款に基づく、定価より1.2倍高い電力を買っていただく事態になったことであります。この結果、九州大学には、前年の入札による電気料金の1.5倍の料金を負担していただくことになりました。

このように、我々の身の回りから、世界全体に及ぶような大きな変化の中で、大学のみならず、我々卒業生が果たすべき役割も、複雑かつ重いものになってきているように思います。

道永新会長に宿題を残すというわけでは、決してありませんが、石橋総長は「九州大学ビジョン2030」を掲げ、総合知で社会変革を牽引する大学を目指して、多角的な取組みを展開しています。私ども経済学部同窓会も、これまでの取組みに加え、出来るところから、九州大学と共に走り始めていただくことを期待したいと思います。

最後になりましたが、９年間にわたり、経済学部同窓会を支えていただいた研究院長の山本先生、磯谷先生、岩田先生、大石先生、事務局長を務めていただいた藤井先生、大坪先生、そして事務局の藤原さん、本当に有難うございました。

そして、福岡支部、東京支部、関西支部の皆さん、長年にわたり大変お世話になりました。心から御礼申し上げます。

道永新体制のもと、経済学部同窓会のみならず、九州大学の価値をもさらに高めていただくことを期待し、お願い申し上げまして、会長退任のご挨拶とさせていただきます。

支部だより

東京支部

関東では、昨年からコロナ感染予防の措置がなく、東京支部総会などほぼ全ての行事をリアル開催することができました。直に九大の先輩後輩と接することの喜びを思う存分感じることができた嬉しい年になりました。

今回は、事務局長として支部総会などのイベントに臨んだ私の体験を中心に報告します。

１．新卒歓迎会「23名参加。テレビの取材が入る嬉しいサプライズも！」

東京支部では、10年前から、関東地区に就職・進学等をする経済学部卒業生を歓迎する会を毎年４月の土曜日に開催していました。例年、東京支部では卒業祝賀会シーズンに福岡に人員を派遣し、関東地区に就職・進学等をする経済学部卒業生にイベントの案内を行っております。しかし昨年はコロナによりこれが困難になり、各ゼミ単位での学位記授与が実施される教室を訪問して新卒歓迎会の案内を行いました。しかし、社外でのイベント参加の自粛ムードなど、かつてない環境の下で昨年の新卒者の参加はなんと「ゼロ」。涙を呑んで中止いたしました。

今年はこのリベンジに向けて活動した結果、竹之下和也さん（2013年卒）をはじめとする若手の活躍により、なんと23名もの参加を得ることができました。また、日本テレビ「バンキシャ！」の取材が入

新卒歓迎会　先輩方と懇談

るなど嬉しいサプライズもあった楽しい歓迎会になりました。

新卒歓迎会（懇親会場）

２．５月25日、６月25日理事会参加「総会に向けて」

５月25日木曜日18時30分から九大新東京オフィスにて東京支部理事会を開催いたしました。また、６月25日日曜日の夜にオンラインで支部総会に向けた臨時理事会を開催しました。理事の皆さんは忙しい中、大勢集まってくれました。事務局長としてはひたすら感謝しかありません。理事会では、７月７日の東京支部総会の開催方法について検討しました。最大の課題はやはり「アフターコロナ」。いかにコロナ以前のような活況を取り戻すか、これを中心に議論を重ねました。

また、運営の目玉として、事務局の運営もほとんどオンラインでの共同作業で完結し、時間効率を最大化する「オンライン事務局」の完成を目指してきました。

３．関西支部総会、福岡支部総会に参加「総会に向けてさまざまなヒントや気づきを得る」

５月20日土曜日午後に大阪のハートンホテル北梅田にて行われた関西支部総会に、吉元副支部長と私、大坪で参加いたしました。

また、６月６日火曜日ホテルオークラ福岡のオークルームにて行われた福岡支部総会に、こちらは伊東支部長と私、大坪で参加いたしました。

福岡では、石橋達朗九州大学総長より「九州大学の現状と将来」をテーマにした特別講演会をはじめ、貫正義同窓会長兼福岡支部長の挨拶ののち、新同窓会長の道永幸典先輩（1981年卒。西部ガスホールディングス代表取締役社長）、そして本部事務局長の大坪稔先生による同窓会の昨年度の活動報告と決算報告、今年度の活動計画と予算案、役員の変更案の説明があり、いずれも承認されました。

また、関西支部事務局のメンバーや福岡支部事務局メンバー、来賓でいらしていた法学部同窓会事務局長などにご挨拶し直接体験談を伺うなど、東京支部総会に向けてのまたとない学びの機会になりました。

４．東京支部総会「いよいよ本番！」

今回は、コロナ前の集客レベルの回復を目指して、また、昨年の新卒歓迎会の際に感じた危機感から、早めに集客に取り掛かりました。昨年から、従来の郵送とFaxを中心にした集客方法から、オンライン集客に切り替えてきましたが、今年はさらにそれを加速させました。幸い、事務局が残してくれた、過去のイベント参加者のメールリストという財産があ

東京支部総会（締めのシーン）

ります。ここに徹底して告知メールを流すなど最大限に活用しました。

また昨年に引き続き、経済学部の教授や准教授に直接メールでゼミ生OBに告知を流していただく旨のお願いをしました。連絡先はどこから入手したかというと、九州大学の公式HPです。なんとそこには全ての教授と准教授のメールアドレスが掲載されているのです！これを発見した時には嬉しさで飛び上がりましたね（笑）。

九大経済学部には教授と准教授合わせて40名以上が在籍されています。せっせとお願いのメールを発信しました。無論これはこちらの都合による一方的なお願いで、先生方にはそれに応える義務などありません。しかし、多くの方から好意的なご返事を頂きました。清水先生、事務局長の大坪稔先生をはじめとして支部総会に来賓としてお越しいただいた先生方にも大いに力になっていただきました。事務局メンバーの頑張りもあり、その結果、リアル参加者85名（来賓含む）と、昨年実績の81名からさらに伸ばすことができました。オンライン参加者を含めると参加者は100名をゆうに超えました。

７月７日金曜日18時からいよいよ本番です。第一部の東京支部総会では、昨年度の活動報告と決算報告、今年度の活動計画と予算案、役員の選任などの報告がありいずれも承認されました。

第二部は記念講演です。道永幸典先輩が福岡からはるばる駆けつけてくださり、「九州四方山話」というテーマでお話いただきました。エネルギッシュな道永先輩の魅力全開の大盛り上がりの講演会となりました。

第三部からは懇親会となり、伊東支部長の挨拶の後、来賓の先生方、そして全国から駆けつけてくださった他支部の先輩方から挨拶をいただきました。懇親会は、若手理事の青柳さんの軽妙な司会で進行しました。

リアル開催を参加者は心ゆくまで楽しんでくれていました。結果、大変盛り上がり、その後の二次会会場に入りきれないほどの参加者があったことを付言しておきます。

この総会の実施にあたっては、記念講演をオンラインで発信するなどチャレンジ要素もありましたが、若手理事を中心に、皆さんのご協力で無事総会を終えることができました。

５．東京同窓会サマーフェスタ「大盛況で大成功」

８月の最終土曜日である26日17時より、九州大学東京同窓会主催の「サマーフェスタ2023」がリアル開催され、経済学部からも多数の卒業生が参加しました。

５月から毎週のように、九大東京オフィスやオンラインでサマーフェスタ推進メンバーが中心となって企画会議を実施し、今年のテーマ、企画内容、広報、集客等の検討を熱心に実施してこられました。本当に頭が下がります。

今年のサマーフェスタは、九大新東京オフィスのお披露目の後、17時より室町三井ホール＆カンファレンスにて開催されました。参加者は220名あまり。会場いっぱい、見渡す限りの九大OBで大盛況でした（笑）。テーマは「会おう・笑おう・つながろう」。東京同窓会事務局による活動状況の報告、石橋総長の記念講演の後、乾杯の挨拶で懇親会が始まりました。

今年は、国内各地同窓会のご紹介、またシンガポール、アイルランドなどをオンラインで繋いだ生中継での海外同窓生だより、また、アフリカから医療奉仕に取り組むロシナンテスの川原さん（医学部卒）からの報告と協力のお願いなど、非常に印象的なイベントが数多くありました。最後に「松原に」を合唱しながら終了しました。

このサマーフェスタの企画運営にあたっては、各学部の若手のボランティアが参加し、九大東京同窓

サマーフェスタ（巨大スクリーンと観客）

会事務局とともに、情熱を持って準備に邁進してくれました。

経済学部からは、吉元副支部長をはじめ、司会の朱雀成海さん（2019年経済学部卒）、イベント企画の総監督瀬藤亮太さん（2015年経済学部卒）、広報責任者竹之下和也さんほか２名（上妻涼子さん、神路祇優さん）が活躍してくれました。彼らの貢献と活躍を見るにつけ同じ経済学部同窓生として誇らしい思いです。

最後に、オンラインでの経済学部同窓会、東京支部総会及びサマーフェスタの運営にご協力いただいた方の個別のお名前をここに記すことはできませんが、感謝の意を表したいと思います。

【経済学部東京支部　事務局長　大坪　勇二　（1988年卒）】

関西支部

経済学部同窓会関西支部総会を開催

５月20日（土）、ハートンホテル北梅田において、第48回経済学部同窓会関西支部総会が行われました。

コロナによる規制がほぼ撤廃され、私達の生活もコロナ禍前の生活に戻ってきました。当日は大学や同窓会本部、法学部関西支部からのご来賓と会員合わせて約40名にご出席いただきました。

第一部は、全国総会終了後に谷村事務局長（平成３年卒）の司会進行で始まり、冒頭、小森田支部長（昭和36年卒）がご挨拶。引き続き、事務局長から行事報告、行事計画案、役員人事案の説明と会計報告が行われ、議案はすべて原案通り承認されました。

第二部は、最近TV等にも多数ご出演され、文藝春秋や講談社などの各種媒体で執筆、また多数の著書を執筆されている、自動車産業に精通されたジャーナリストの井上久男様に、「EVシフトと産業革命～日本の自動車産業は生き残れるのか～」と題して、最新の日本の自動車産業の動向について詳しくご説明いただきました。

井上久男氏講演

第三部は、進行も清丸事務局長代理（平成２年卒）、安藤理事（平成２年卒）にバトンタッチし懇親会を開宴。太田副支部長（昭和46年卒）による開会のご挨拶、ご来賓の紹介の後、貫前同窓会長（昭和43年卒）のご発声による乾杯で歓談に移りました。

小森田憲繁関西支部長

コロナがほぼ終焉し、コロナ禍での状況、今後の期待など、会場のあちらこちらで話が弾んでいました。そして、久しぶりに声を張り上げて学生歌「松原に」を全員で合唱しました。楽しく和気あいあいとした中、最後に中野副支部長（昭和50年卒）の締めのご挨拶で懇親会を終えました。

関西支部では、今後、９月６日（水）のゴルフ会（愛宕原ゴルフ倶楽部）、11月11日（土）の見学会、来年３月６日（水）のゴルフ会などの行事が予定されています。関西におられる同窓会の皆さんの多数のご参加をお待ちしています。

【経済学部同窓会　事務局長　谷村　信彦　（平成３年卒）】

福 岡 支 部

1．来賓・同窓生等約180名が参集し開催 ～ 2023年度福岡支部総会～

福岡支部では、令和５年６月６日（火）、福岡市・ホテルオークラ福岡において2023年度福岡支部総会・特別講演会・懇親会を開催しました。福岡支部総会は、2019年の６月に開催して以来、2020年と2021年はコロナで中止とせざるをえませんでした。2022年には、どうにか着座形式で開催しましたが、コロナの影響がまだ残り、参加者は110名ばかりでした。今回は、立食形式で180名の方に参加していただき、総会もようやくコロナ前の状況に戻ってきました。

総会では、2022年度事業報告・決算報告（案）、2023年度事業計画・予算（案）が審議され、いずれも原案通り承認されました。また、５月に大阪で開かれた全国・関西支部合同総会で決まった役員の報告もあり、新旧の役員が挨拶されました。

続いて特別講演会に移り、石橋達朗九州大学総長が、「九州大学の現状と将来」という演題で講演をしていただきました。「総合知で社会変革を牽引する大学」をめざす九州大学のビジョン2030を説明していただき、研究成果の社会実装や九州・沖縄地域の大学連携の現状、国際卓越研究大学に向けた取組みを紹介していただきました。

懇親会は、新たに経済学部同窓会長に就任された道永幸典会長（昭和56年卒）が開会挨拶、続いて石橋達朗九大総長と徳本穣法学研究院長がご来賓の挨拶をされ、乾杯の音頭は橋本上福岡支部長（昭和59年卒）にとっていただきました。その後しばらく歓談した後、３期９年間同窓会長をつとめられた貫正義顧問（昭和43年卒）に花束を贈呈いたしました。

道永幸典同窓会長の開会挨拶

次に名誉教授・教員の紹介に移り、12人の先生方に登壇していただき、大石経済学研究院長に教員を紹介していただきました。経済学部同窓会の各支部からは、東京支部から伊東信一郎支部長（昭和49年卒）、大坪勇二事務局長（昭和63年卒）、関西支部から太田光一副支部長（昭和46年卒）、中野光男副支部長（昭和50年卒）が参加され、それぞれの活動を紹介されました。福岡支部からは、橋本上支部長、高木副支部長（昭和57年卒）、村上副支部長（昭和58年卒）、内村副支部長（昭和60年卒）、縄田事務局長（昭和62年卒）が登壇しました。その後、留学生10名にも壇上に上がってもらい出身国や研究テーマなど自己紹介をしてもらいました。

閉会の時間も近づいてきた頃、九州大学応援歌「松原に」の映像を流し、声を出して合唱しました。最後は内村福岡支部副支部長に博多手一本を入れてもらい、2023年度総会は閉会となりました。

今回の総会は西日本シティ銀行の同窓生の皆さんに幹事役をつとめていただきました。おかげさまで、2023年度福岡支部総会・特別講演会・懇親会を盛況裡に終了することができました。この場を借りて、ご協力を深く感謝申し上げます。

【文責：福岡支部事務局】

潮﨑先生より貫顧問（前会長）へ花束贈呈

２．福岡支部交流ゴルフ会、第72回コンペを開催！～５月14日（日）伊都ゴルフ倶楽部

堀公認会計士事務所 代表
堀　芳郎氏
1989(平成元)年卒

令和５年５月14日（日）に伊都ゴルフ倶楽部で、九州大学経済学部同窓会福岡支部第72回ゴルフ会が開催されました。今回は過去最大の66名の参加となりました。これも今年から九州大学経済学部同窓会長に就任されました昭和56年卒の西部ガス社長の道永幸典先輩、九州大学経済学部同窓会福岡支部長に就任されました昭和59年卒の九州電力副社長の橋本上先輩をはじめ、西日本シティ銀行頭取の昭和58年卒の村上英之先輩たちの声がけにより、七社会所属のOBをはじめ各所から参加をいただいた結果であると思います。

今回、不本意なスコアながら優勝をさせていただきました、平成元年卒の堀芳郎です。現在、福岡市中央区大濠公園で福岡監査法人及び堀公認会計士事務所の代表として公認会計士をしております。OUT２組目として、50ヤードの寄せがワンピンに絡む技を持つ昭和43年卒の九州電力相談役の貫正義先輩、フェアウエイウッドで残り180ヤードを３回２オンされた昭和54年卒の篠栗町長の三浦正先輩、２バーディーと健闘された昭和62年卒の九州電力常務の高藤英夫先輩と同組で楽しくラウンドをすることができました。アイアンショットは比較的安定していましたが、６番の長いミドルでセカンドが木に当たって右に跳ねＯＢとなり11打を、８番ショートホールでもＯＢを出し６打を叩き、それらのホールがうまく隠しホールになったことで結果的に優勝が転がり込んできました。第68回ゴルフ会でも優勝をさせていただいたので今回が２回目の優勝になります。

ラウンド終了後には、表彰式に合わせて参加者全員の自己紹介と近況報告がおこなわれましたが、各自のスピーチが多岐に渡っていたこともあり時間を感じませんでした。

秋に開催予定の第73回ゴルフ会ではスコアを重視してラウンドができればと思います。

貫会長（当時）よりトロフィー贈呈

伊都ゴルフ倶楽部クラブハウス前で集合写真

一読千金

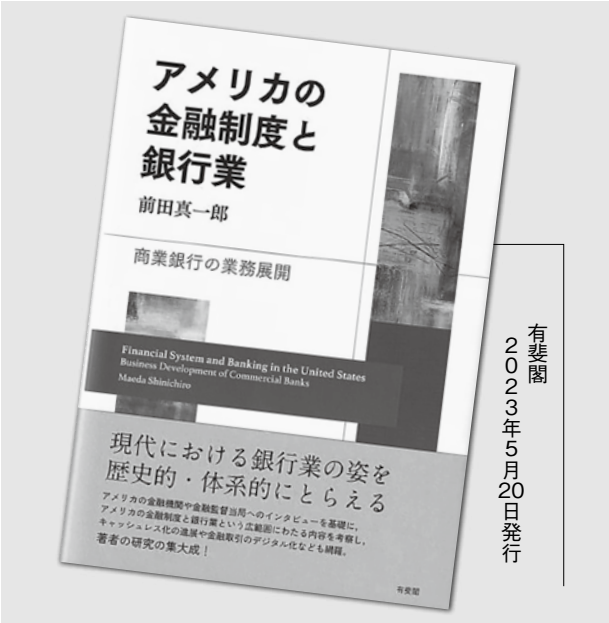
『アメリカの金融制度と銀行業―商業銀行の業務展開』

経済学研究院 准教授
前田　真一郎氏
1992(平成４)年卒
2007(平成19)年博士入

このたび「一読千金」に執筆する機会を頂き、大変光栄に存じます。2023年５月には、経済学部同窓会全国・関西支部合同総会に出席いたしました。コロナ禍の影響で対面での開催が難しい状況が続いてきましたが、今回は対面で出席でき皆さんからパワーを頂きました。私自身も、九州大学経済学部の卒業生で、上記総会の懇親会では、偶然にも同窓生に再会し、思い出話もすることが出来ました。

私は九州大学に2017年10月に着任いたしました。経済学部では「金融システム」を、経済学研究院では「上級金融システム」を担当しております。また海外留学を目指すGProE生向けのゼミナール「内外混在少人数演習」なども担当しております。ようやく海外渡航も出来るようになり、学生さんを海外留学に送り出せるようになってきています。

2023年５月に『アメリカの金融制度と銀行業―商業銀行の業務展開』という単著を刊行いたしました。



本書は、金融制度と銀行業という広範囲にわたる内容を、アメリカを対象として考察しています。世界的な金融危機の発生により、アメリカをはじめとする金融制度の体系は、大きく変容しました。金融危機の発生も踏まえ、現代の金融制度とその重要な構成要素である銀行業および金融業について、歴史的かつ体系的に捉えようとしたものです。本書の目次は、以下のとおりになります。

まえがき
序　章　金融制度と銀行業の分析
第１章　アメリカの金融制度
第２章　アメリカの金融機関
第３章　アメリカ商業銀行の多角的展開
第４章　金融危機と商業銀行
第５章　キャッシュレス化と銀行業
終　章　銀行業の現代的特質
あとがき

全体では300ページを超える分量となっていますが、本書の主な分析対象は、アメリカの金融制度と銀行業です。金融制度を明らかにするためには、金融の役割、金融取引の慣習などを把握したうえで、経済主体の金融取引、金融機関の行動、金融技術の発展などを多面的に分析する必要があります。本書の前半（第１章～第３章）では、金融制度の静態的および動態的な分析を試みました。静態的な分析としては、様々な金融機関の存在と役割、金融商品とその取引形態などを考察しています。第１章はアメリカの金融制度について、第２章はアメリカの金融機関について、その歴史と現状を単独で把握できるように心がけました。また、動態的な分析としては、金融機関の行動について考察しています。第３章は、銀行を中心とした金融機関経営について、その変化をもとにアメリカ金融史を概観できるように意識しました。

アメリカの金融制度が形成される過程において、大きな影響を与えたのは商業銀行の行動でした。本書の後半（第４章～終章）では、現代の銀行業に焦点を当てています。具体的には、2008年の金融危機、キャッシュレス化やデジタル化の進展など現代的事象を取り上げながら、現代における銀行業の特徴について考察を試みました。現代においては、キャッシュレス化の進展や金融取引のデジタル化など、これまでの先行研究で説明しきれないような事象が数多く発生しており、本書の後半ではそれらを網羅す

るように努めました。

本書のタイトルを銀行業（banking）としたのは、商業銀行の変容をとおして銀行業の分析を試みたためです。現代の銀行業を明らかにするためには、商業銀行の業務展開を追跡する必要がありました。アメリカで銀行とは、要求払預金または同等の預金を受け入れ、かつ企業向け貸付を併せ行う機関とされています。証券市場が発展しているアメリカでは、預金の獲得および企業向け貸付のいずれもが容易ではありません。企業は証券市場から直接資金調達を進めていき、商業銀行は企業向け貸付のみに依存していては成長できませんでした。そのため商業銀行は、試行錯誤を繰り返しながら、リテール金融業および証券業に進出していきました。アメリカ商業銀行の多角的展開は、持株会社など経営手法の変化を通じて、銀行を中心とした金融機関のあり方そのものを変えていったのです。本書は銀行業を追跡していますが、それは、証券業、リテール金融業、その他金融業に至る現代の金融業の変化を追跡することにつながったと考えています。

私がアメリカ金融について本格的に研究を始めたのは、2000年にアメリカへ赴任した時です。あれから20年超にわたり、アメリカ金融の強さと弱さを見てきました。振り返ると、アメリカの金融機関の業績拡大と高収益が評価される時代もあれば、2008年の金融危機を引き起こした収益追求の動きが非難される時代もありました。ただし、いつの時代も共通していたのは、アメリカ社会と金融機関の対応の速さです。それは、時代とともに、金融取引において市場原理を重視する姿勢を強めていったアメリカ金融の特質といえるでしょう。本書は、アメリカ金融についての研究書ですが、その背景にある経済社会の仕組みやあり方についても示唆するものになっていればと考えています。

卒業生の方には、金融機関に勤務されている方も多くいらっしゃると思います。『週刊金融財政事情』（2023年５月30日号）ほかには、本書の書評も掲載されています。このような研究が、経済学部同窓会および同窓生に対して何らかの示唆となれば幸いです。

リレー随想

2つの質問

経済学府産業マネジメント専攻教授
小城　武彦氏

「貴方は、なぜ一度しかない貴重な人生を今の仕事のために使っているのですか？」

「貴方は、今の仕事を通して成長している実感がありますか？」

この２つの質問は、私が企業の元気度を把握するために長年使ってきたリトマス試験紙だ。従業員にこの質問を投げかけ、一体どんな回答が返ってくるか。元気な会社とそうでない会社の間では、大きな違いがある。

元気な会社で返ってくるのは次のような回答だ。

「自分が担当しているこの商品を世界中の人々に届けたいと思っているからです。」

「この会社で、世界初の新しいサービスを実現したいと思っているからです。」

内容にはバラエティがあるが、明確な回答が即座に返ってくるのが特徴だ。

成長実感については、「なんでこの人はこんな質問をするのだろう？」という顔をされる。そんなことは当たり前ということなのだ。

一方で、元気がない会社では、回答はすぐには返ってこない。多くの人が口ごもる。

沈黙がしばらく続いた後に、

「突然、そんなこと言われても。考えたこともないし。。。」

といったコメントが小さい声で返ってくる。

こうした差が生じるのは一体なぜなのだろうか。

ご縁をいただき2020年から九州大学ビジネススクール（経済学府産業マネジメント専攻）で教鞭をとっている。ただ、自身は長年企業経営に携わってきた。これまで、業績の芳しくない上場企業２社、成長著しいベンチャー企業１社、スタートアップ２社で代表取締役を務めてきた。その他にも、数社で社外取締役・社外監査役などを経験してきている。

その後、企業組織の研究者としての顔も併せ持つようになり、つくづく感じるのは組織というものの

力の強さと怖さである。人は、ひとたび企業組織に属すると、その組織の中でいかに生き残っていくか、いかに昇進していくかを最優先に考えるようになってしまう。組織人の宿命とも言えるものだ。結果として、その企業の中での生き残りや昇進の条件、すなわちその企業特有の「出世条件」が従業員の問題意識や行動に多大な影響を及ぼすことになる。先ほどの回答の違いが出てくる原因も、この出世条件の違いにありそうだ。

元気な会社は、概して出世条件が企業の存在意義や社会における役割（「経営理念」として言語化されていることが多い）としっかり繋がっている。従業員は、企業が顧客や社会に提供している価値にどのぐらい貢献したかで評価されている。顧客や社会に向き合い努力することが、自身の昇進に直結することになる。

一方で、元気がない会社の出世条件は、様相がずいぶんと異なっている。有力な上司のウケがよいとか、社内根回しや書類作りが上手いとか、社内に「敵」が少ないとか、顧客や社会とは関係のない社内の事情で昇進が決まっていることが多い。注意が必要なのは、こうした会社でも、人事評価制度自体を見ると、元気な会社と大きな差異がないことだ。制度上では、顧客価値への貢献度などが基準として謳われている。ただ、問題はその運用実態だ。制度上の基準とは異なる基準で従業員が評価されているのである。制度と運用が大きく乖離しているのだ。

人は企業組織に入ると、「一体この会社ではどんな人が偉くなっているのだろう？」と昇進する人を注意深く観察する。そしてその人がとっている行動や態度から、暗黙の出世条件を読み取っていく。いくら人事制度が顧客への価値提供を評価基準とすると謳っていても、実際に昇進する人が、有力な上司のウケがよいとか、根回しや書類作りが上手い人ということであれば、それを真似ようと一生懸命努力するようになってしまう。

従業員は、企業に入社するまでは社外からその企業を見ている。企業が顧客や社会にどのような価値を提供しているのか、その存在意義や社会における役割がよく見える。リクルート用パンフレットも、そうした点を強調しているのが常だ。そして存在意義や役割に共感し企業の門をたたくことになる。自分もそれに参加したいと高い志を胸に秘めて入社する。しかしながら、元気がない会社では、入社初日から、その初志を忘れさせるメカニズムが動いている。初志とは関係のない出世条件に適合することが求められ、そのために努力する日々を送ることになってしまうのだ。「こんなはずではなかったのに」と思いながらも、そうした日常に慣れ親しんでいく。

冒頭の質問に対して、口ごもってしまう人々はこうしたプロセスを経験していると思われる。忘れてならないのは、このことは、彼ら彼女らが仕事に対して不真面目だとか、さぼっているということを全く意味しないという点だ。誰もが、組織の中で一生懸命努力している。組織が彼ら彼女らの努力の方向を本来とは異なる方向に向けさせてしまっているのだ。先ほど「組織の力の強さと怖さ」と述べたのは、こうした意味においてである。

「であれば、その出世条件そのものを変えてしまえばよいではないか。」

こう考える方も多いと思う。確かにその通りだ。だが、出世条件そのものを変更することは意外と簡単ではない。なぜなら、社内で出世条件を変更する権限を持っている人、すなわち経営幹部の人たちは、従来の出世条件に誰よりも適合してきた人たちだからである。一生懸命に努力し、従来の出世条件に誰よりも適合してきたからこそ、経営幹部に昇りつめることができた。そういう人たちにとって、従来の出世条件の変更は自己否定に近い意味をもってしまう。企業風土の変更が難しいのはこのあたりに真因がある。従来の風土に一番適合できた人、適合できたからこそ幹部になった人に、その風土自体の変更を期待することは簡単ではない。

業績が極端に悪化し、生きるか死ぬかの段階になって初めて企業風土改革が動き出す例が多い背景にはこうした事情がある。

「難しいのは分かったが、もっと早い時点で何らかの手を打てないのか。」

こうした疑問に答えを出していくのが、まさにビジネススクールの役割だ。九大ビジネススクールは、私のような実務家出身の教員と、長く研究に従事してきたアカデミック教員が協力してプログラムを実施する態勢をとっている。世界最先端の経営理論と、それを現実の問題に適応する際に生じる問題の克服方法を合わせて学ぶことができるのが最大の特徴だ。社会人向けの大学院のため、授業は平日夜間と土曜日のみで構成されている。

大学卒業後、ビジネスの現場で直面している課題や抱えている悩みに答えを出す場が母校九大に用意されていることを是非お伝えしたいと思い、本稿を書かせていただいた。読者の皆さんとキャンパスでお会いできることを心から願っている。

リレー随想

西鉄時代40年間を振りかえって

藤田　靖英氏
1983（昭和58）年卒

令和５年３月30日、最後の勤務先である福岡小松フォークリフト㈱の社長を退任し、40年に及ぶ西鉄に別れを告げた。先輩諸氏も感じたと思われるが、正直40年などあっという間の出来事であった。されど40年、サラリーマンあるある、喜怒哀楽もあるわけで、少し西鉄時代を振りかえってみる。

１．システムエンジニア時代

昭和58年４月に地元の西日本鉄道㈱に入社した。最初に配属されたのが、電子計算部で時刻表、経理、勤怠・給与システムを中心にグループ会社のほか社外システムも取り扱っていた。残業に次ぐ残業、休日返上で‘24時間戦う’ビジネスマンだった。

２．ソラリアプラザ時代

平成元年３月ソラリアプラザ開業。ソラリア西鉄ホテル、ソラリアスポーツ、ソラリアシネマなどが一体となった複合型コンプレックスビルである。コンセプトは、“世界風の吹く街”。プラダ、エンポリオアルマーニを初めとする最新・話題のブランドを取り揃えた高感度ファッションビルであった。㈱ソラリアクリエイトという運営会社に出向した私は営業課長を拝命した。主な業務は、100店舗を超えるテナント管理、テナント誘致、商店会運営などである。

同年４月同業のイムズもオープンし、ライバル同士切磋琢磨し、お互い九州のファッションリーダーを目指していた。相手は三菱地所、手ごわい相手である。競って九州初ブランドの誘致を積極的に行った。イムズのスタッフとも交流を重ねる中で、相手の営業課長とも親しくなり、交流は現在も続いている。

当時日本全体はバブル景気に沸き、ファッション業界も大変華やかな世界であった。洗練された上質のお客様を増やすためには、テナント従業員の質を高める必要性があり、特に教育・研修に力を入れた。

また、年に一度ソラリア西鉄ホテルを貸し切って総勢800名を超えるテナント従業員の懇親パーティーを開催した。様々なアトラクションやイベントがあり、最後にお楽しみ抽選会を行い、一等賞はなんとハワイ旅行ペアチケットであり、当時はやっぱりバブルであった（笑）。

その後同社に２度出向を重ね、最後はソラリアプラザの館長となった。通算で10年間ソラリアプラザに在籍し、20代後半～ 40代初めまで大変お世話になった。ありがとう！！ SOLARIA PLAZA

３．福岡駅再開発時代

昭和61年からスタートした福岡駅再開発プロジェクト（ソラリア計画）は、当時西鉄最大規模の総事業費1200億円以上を投資した一大プロジェクトであった。平成元年ソラリアプラザビルオープンを皮切りに、平成９年オープンの天神バスターミナル、福岡三越オープン、さらにはソラリアステージ、駅コンコース、福岡（天神）駅オープンと続き、平成11年に完成した。

私は福岡駅開発本部統括課で、各種契約関係、工程進捗管理、行政交渉、公共デザイン、駐車場・駐輪場、開業販促などを担当し、年間を通してゆっくり休日を過ごした記憶があまりない。ソラリア時代とは違い、いろんな難問も数多くあり、さすがに挫けそうになったが、西鉄グループの象徴的事業であり、開発本部の職員はもちろん三越やＪＶの方々、その他大勢の関係者の方々の途方もない努力によりみんなで完成させることができた。

４．ニモカ時代

平成16年の５月、某役員に呼ばれて近くの屋台へ行き、こう言われた。

“Suicaの西鉄版を創るぞ!! ”

早速、７月に企画部内に専門部署を設置し、リーダーとして５人のメンバーでスタートした。

○コンセプト…バスにも、電車にも、お買い物にも使える便利なカード
“**ni**ce **mo**ney **ca**rd”

①Suica方式採用
②JR九州、福岡市営地下鉄との相互利用の実現、全国相互利用を目指す
③電子マネー決済でのポイント付与
④現金決済でのポイント付与
※ポイント管理システムとして特許取得
⑤クレジット機能付カード発行
⑥顧客管理システムの導入

お客様の利便性を第一に考え、全国で初めてバス、

電車、お買い物でもポイントを付与し、そのポイントをお客様が自由に使える仕組みとした。４年の開発期間を経て、平成20年５月にニモカサービスを開始した。交通系ＩＣカードの中では一番利便性が高いカードであると自負している。

㈱ニモカを立ち上げ、営業、企画、販促、広告、加盟店管理などを行い広く普及に努めてきた。その結果令和５年２月末には、記念すべき500万枚を達成した。この数字は福岡県の人口に匹敵するものだ。㈱ニモカに出向して社長となり、他の交通事業者や銀行、航空会社など積極的に展開を図った。また、学生証nimocaなどの提携も推進した。今年で15周年を迎え、日常的に利用している光景を見ると開発時の苦労などもすべて報われた思いであり本当に感無量である。

５．西鉄人事サービス時代

ニモカ事業を軌道に乗せたところで、西鉄人事サービス㈱への社長としての就任が決まった。西鉄グループ約18000名をフォローアップする会社である。①給与関連、②福利厚生、③労働安全、④健康管理、どれも重要な仕事であるが、それに加えて政府が導入を進めるマイナンバー制度への対応などがあった。また、働き方改革として、残業時間の短縮、労働災害の減少、病気（心の病）のケアの推進などを行った。異業種交流会も盛んで、全国の大手企業の総務担当役員の方々との交流は勉強になることも多く、西鉄グループにも大いに参考にさせてもらった。

６．小松フォークリフト時代

西鉄グループの中でも異色の存在であるコマツと西鉄の合弁会社である。昭和45年に創業し、53年目を迎えた企業である。七代目社長として赴任した当初、社員のモチベーションは低く、営業部門とサービス部門の組織が硬直化した状況だった。現場を知るためフォークリフトの運転免許を取得したり、社員全員の面接・ヒアリングを実施し人心掌握に努めた。営業･サービス部門の効率性を高めるため､セールスフォースのシステムを導入、全員にiPadを配付し、売上管理や顧客管理のレベルが格段に上がった。残業や休日出勤の削減にも効果を発揮した。おかげで令和３年の経常利益は過去最高益となり在籍した７年間で純利益は1.65倍となった。給与・昇給制度も改定、２年間かけて基本給の大幅アップを実現し従業員のモチベーション改善に貢献した。営業スキルやサービス技術向上のため、社内コンテストなどを頻繁に実施した。

その結果、全コマツで毎年行われているＡＴＣ大会（技術・技能コンテスト）があり、令和４年度のフォークリフト部門で、なんとわが社の女性整備士が優勝（女性初）という快挙を成し遂げた。

最後に、今こうして振り返ると走馬灯のように記憶が蘇ってくる。充実した40年であった。色んな経験をさせてもらった西鉄に大いに感謝する。

さあ、これから第２の人生がスタート！いい意味でのプライドを持ち、焦らず、慌てず、諦めず、今日も笑顔とまごころで。一度の人生、健康に留意しこれからもエンジョイして参ります!!

開業記念　特大フェレットと

リレー随想

経済学部の思い出

福岡インターナショナルスクール参事
早崎　栄一氏
1983（昭和58）年卒

昨年、九州大学で「九州発“内なる国際化”の再考」というテーマで国際ビジネス研究学会が開催された。その際、私も元九州経済連合会会長、立命館アジア太平洋大学第２代学長、京都大学経済学部教授とともにパネラーとして参加した。自分のようなものが登壇するのは畏れ多かったし、もちろんとても緊張もした。それでも、なんとか時間をやり過ごし、終了後の安堵感に包まれていたときに、九大の潮﨑准教授から「同窓会の会報でエッセイを書いてみませんか」と言われたのである。そのときは責任を果たせたという高揚感もあり、「書く人がいなかったら、そのときはいいですよ」と答えてしまっていた。

そして、メールは送られてくる。「あのときは確

かにそう言ってしまいましたが、僕なんかではなく、功成り名を遂げた素晴らしい人が書くべきではないでしょうか」と返信したくなったものの、メールと一緒に送られてきた経済学部の会報をまずは読んでみた。

自分は同窓会の会報を見たことがなかったのである。大学のクラスの同窓会のLINEグループで会報が話題になったときも、同窓会費を払っていないので、会報が送られてきていないのだろうと書き込んでいたくらいである（これは誤認で、自分の住所の行方が知られてなかったということが後日判明する）。

さて、その会報である。大きな会社の社長になったそんな私もかつては九大で学生生活を送っていました的な話がある一方で、一つの記事に目が釘付けになった。その記事は単なる若造にすぎなかった40年以上前の自分の姿を思い出させてくれた。

その記事とは、武野教授を偲ぶものである。私自身は経済工学科であったものの、数学やコンピュータに興味はなく、産業計画を担当されていた野口雄一郎ゼミを専攻していた。そんな私がなぜ武野先生の記事に反応したかというと武野先生のサブゼミに参加していたからである。ある日、下宿に武野先生から電話があった。自分の部屋に電話がなく、大家さんの家電（いえでん）に電話があり、部屋のインターフォンが鳴って、大家さんの家に走るという時代であった。大家さんから「武野さんという方からです」と言われ、何か自分は悪いことをしたかなとまずは考えた。武野先生の授業で原書講読と経済原論Ⅱを取っていた私は、合格はさせてもらっていた。

向かって右端が筆者

ただ、経済原論については優秀な人のノートのコピー（あるいはコピーのコピー）のおかげで通してもらったようなものである。ということは、その彼と全く同じような答えを書いたことがバレたかとまずは考えた。それでも気を取り直し、つとめて冷静を装い、「はい、早崎です」とまずは言って、返事を待った。先生は「君、よかったらうちのサブゼミに参加しませんか」とおっしゃったのである。いやいや、そんな話が自分に来るわけがないと思い、「それは学籍番号が僕の一つ後ろの林くんの間違いではないですか」と尋ねたところ、「バカもん、間違えるわけはない。僕は君に電話をしているのだ」と言われ、テストのことではなかったのだという安心感から、「わかりました」と答えたのである（本当に自分は調子に乗りやすい単純なやつである）。

そんなサブゼミは、きちんと予習していかないと全くついていけないハードなものだった。その後、卒業が視野に入り、就職活動を始めたころ、武野先生に食事に誘われ、またしても驚くべき提案をもらうのである。「経済学部の大学院に残って、研究者の道に進まないか」というものだった。そのときも危うく舞いあがってしまいそうになったものの、流石にそこは落ち着きを取り戻し、「都銀か生損保に行こうと考えています」と答えた。

それに対して「君は夢が小さい」と先生から喝破されたので、正直に自分の実家の経済状況などについて打ちあけたところ、「それなら仕方がない。でも折角九州大学の経済学部を卒業するのだから、必ずや誰かのため、社会のためになるような仕事をしなさい」と言われたのである。

そして、今回これまでの自分の来し方を考えてみる。九大を卒業した後は住友銀行に入った。そこでは海外経済の調査を行う部署にも在籍したのだが、武野先生のサブゼミでBusiness Weekを読み込んでいたことがとても役立った。その後、私は福岡銀行に転職し、現在は福岡インターナショナルスクールで勤務している。また、学生時代は想像もしていなかったが、事業構想大学院大学というところで教鞭も取っている。

武野先生に大きく胸を張って、社会のためになることをやってきましたとは言えないかもしれない。でも、なにかに迷ったときに、今やろうとしていることは誰かのためになるのかと問う自分はいる。

ここで改めて言わせてください。武野先生、ありがとうございました。

〈追記：福岡インターナショナルスクールについて〉

私が勤務するインターナショナルスクールについて最後に少しだけご紹介させてください。わが校は1972年に創立され、現在51年目になります。1990年に現在地である百道に移転し、学校法人として新たなスタートを切りました。

当校では、日本の学校とは異なる教育プログラムであるインターナショナルバカロレアの考え方に沿った教育を行っております。卒業後は海外の大学に進学する生徒がほとんどですが、九州大学に進学する生徒もいます。

生徒は３～４歳児クラスから12年生（日本の高校３年生）までが在籍しており、生徒数は現在400名弱という水準です。なお、インターナショナルスクールという名前の通り、海外から来ている生徒が多く、生徒の国籍は30か国以上という状況です。

福岡では、現在、国際金融都市を目指すべく「チーム福岡」が運営されています。海外の企業誘致に関しては、駐在員子女の教育という観点からも、インターナショナルスクールの重要性は言うまでもありません。

今後も福岡の国際化の一助となるべく、インターナショナルスクールの運営に全力を尽くして参りたいと思っています。

リレー随想

EVシフトと産業革命

ジャーナリスト
井上　久男氏
1988（昭和63）年文学部卒

１．日本のＥＶ比率はわずか１％

筆者は朝日新聞経済部記者だった1995年10月以来、30年近く自動車産業をウオッチしてきた。ここ数年は、自動車産業にはこれまでにないような大きな変革の波が襲来していると強く感じている。特にＥＶ（電気自動車）シフトは、大きく産業構造を変えようとしている。

2022年の国内における新車販売台数は前年比5.6％減の約420万台。7.7％増の約473万台を記録したインドに追い抜かれ、中国、米国、インドに次ぐ世界４位に転落した。この420万台のうちＥＶの販売台数は前年比2.7倍の約５万9000台となり、初めてシェアが１％を超えた。日本でもＥＶ販売は増えつつあるが、海外と比較してみると、「ＥＶ後進国」であることが一目瞭然だ。

中国では新車販売2686万台のうちＥＶは約20％を占める537万台。米国では1390万台のうちＥＶは約６％の81万台。日本と同様に世界的に知られた自動車メーカーが多く、ディーゼル車に強かったドイツでは新車販売265万台のうちＥＶは47万台で約18％を占めた。

世界のＥＶシフトは、気候変動の影響を受け、脱炭素を推進することを起点としている。この脱炭素については、自動車の生産から廃棄までのライフサイクルアセスメント（ＬＣＡ）で見た場合に、ＥＶが本当に有利なのか、日本勢が得意とするハイブリッド車が有利なのか、専門家の中でも意見が分かれている。

こうした議論は、一種の「神学論争」のようにすら見えてしまうが、今や世界のＥＶシフトは、この脱炭素論議を超え、クルマのスマート化を進めるうえで不可欠との認識の下で進み始めている。この点で日本は後れを取り始めたのではないかと、筆者は問題意識を持っている。

２．ＥＶシフトの本質は「スマート化」

クルマのスマート化とは、文字通り「賢いクルマ」作りであり、イメージで言うと、「スマートフォン化」とも言えるだろう。そうなると、クルマのソフトウエアが常にアップデイトされ、新車ではなくても最新の自動運転補助機能などが使えるようになる。乗り心地（走行モード、ブレーキシステム、ステアリングなど）も、クルマに付いたPad端末で簡単に調整できる。

走行中に電池やモーターなどに関する様々なデータが吸い上げられ、そのビッグデータを次の開発に活用できたりもする。このため、業界ではＥＶのことを、ソフトウエアで定義されるクルマという意味から「ソフトウエア・デファインド・ビークル（ＳＤＶ）」と表現するケースが増えた。

さらにＥＶは今後、社会システムの中で位置づけられるようになるだろう。たとえば、真夏の昼間などの電力不足時に、走行していないＥＶの蓄電池から逆に電力を供給するような形で使われることが想定される。たとえば、ＥＶを家庭用電源として用いたり、マンションのエレベーターを動かしたりするイメージだ。将来的にＥＶはスマートグリッド（次世代電力網）の中に組み込まれていくのではないだ

ろうか。

ＥＶが普及し、こうした利用のされ方に移ると、結果としてエネルギー革命を誘発し、それが産業革命につながるのではないかと、筆者は最近の取材を通じて強く感じている。

３.「電気運搬船」は異端妄説？

こうしたエネルギー関連では新たなビジネスが生まれている。筆者が注目するのが、21年３月に設立されたベンチャー企業のパワーエックス（本社・東京）だ。

洋上風力などで発電した電力を船で運ぶ電気運搬船事業に挑戦している点がユニークだ。世界初と言われる電気運搬船の１号艇を25年に完成させる予定。同社に対しては、大手商社や大手金融機関などが出資している。

出資者でもある今治造船が建造する１号艇は、１回の充電による電気運搬量が約22.2万ＫＷｈ。４人世帯が１日に使う電力量を13ＫＷｈ程度と仮定すると、約17,000世帯の１日の電力使用量を運搬できる計算になる。

パワーエックスによると、海底ケーブルなどの送電設備を新設するよりもコストが低いという。今後国内では洋上風力発電の事業が進む方向だが、いくら再生可能エネルギーを発電しても、既存の送電網に空きがないなどと言われる。このため、再生可能エネルギーが余っている地域から電力需要がひっ迫している地域に簡単に送ることができない。

パワーエックスはこうした課題に解決策を見出すべく起業したわけだが、産業界には「本当に船で電気が運べるの？」といった疑問を呈する声があることも事実だ。筆者は技術屋ではないので、その解は持ち合わせていないが、同社の動きを見ていると、封建時代から明治の新しい時代に入り、福澤諭吉が言った「異端妄説」という言葉を思い起こさせてくれる。この言葉には、今は非常識と思われるかもしれない考えがいずれ常識になるという意味が含まれる。筆者はこれを、常識を健全に否定する考え方が変革の時代には重要なのだと受け止めている。

話をＥＶ関連に戻すと、ＥＶはガソリンエンジン車に比べて部品点数が３割程度減ると言われている。そうなると、既存のサプライチェーン（供給網）の在り方も変わってくる。

４．テスラが導入した製造革命

一例を挙げると、ＥＶで先頭を走る米テスラは、2020年ごろから「ギガプレス」と呼ばれる、アルミ鋳造による車体の一体成型技術を導入している。

クルマの骨格は従来、プレスした鋼板部品をロボット溶接でつないで完成させていたが、テスラは車体一部の骨格を「ギガプレス」導入により、溶接工程をなくした。70近い部品を溶接でつなぎ合わせていた工程が不要となり、溶かしたアルミを流し込んだ金型によるワンショットで一部の骨格が完成する。アルミを使うことで車体の軽量化が進み、航続距離が伸びる。生産工程も短縮されコストダウンにもつながる。テスラの骨格は、競合車に比べて人間２人分に相当する約130キロも軽いとのデータを筆者は入手している。

テスラが中国・上海工場でこうした最新鋭の手法を導入することで、中国企業がそれを学び、ＥＶの製造技術は中国が最も進んでいると言われるようになった。その様相を中国に駐在する日本人経営者は「テスラ学校」と呼ぶほどだ。

５．サプライチェーンの構造が変化

ＥＶシフトに出遅れたトヨタ自動車は今年５月、ＥＶの開発から販売までを一人のリーダーの下で行う「ＢＥＶファクトリー」を新設。そこのトップには、中国のＥＶ大手であるＢＹＤとトヨタが合弁で中国に設立したＥＶ開発会社で最高技術責任者を務めた加藤武郎氏が就任した。

トヨタも26年に発売するＥＶから「ギガキャスト」を導入する計画で、これにより、33の生産工程で86のプレス部品を溶接でつなぎ合わせていたのが、１工程、１部品に集約できるという。サプライチェーンの頂点にいるトヨタが「ギガキャスト」を導入することで、プレス部品やその関連の金型メーカーなどの仕事が減り、サプライチェーンの構造が変わることは避けられないだろう。

英国で18世紀、蒸気機関が工場に導入され、産業革命が起こった際に職人が仕事を失ったとされるが、社会は豊かになった。蒸気機関から内燃機関（エンジン）にシフトした20世紀初頭には自動車が新たな産業として誕生した。

ＥＶシフトにより、衰退する産業もある一方で、勃興する産業もある。衰退する産業に固執していては新たな潮流に乗り遅れる。ＥＶシフトを利用して、社会の課題解決と新たなビジネスの創出を組み合わせれば、新たな雇用が生まれ、社会の活性化にもつながるといった視点が今求められているのではないだろうか。

（編集部：本文は本年５月20日開催の経済学部同窓会関西支部総会で講演された「ＥＶシフトと産業革命～日本の自動車産業は生き残れるのか～」の一部を纏めていただいたものです。）

リレー随想

台湾の大学の課題と対策について

長庚大学経営学院　学院長
詹　錦宏氏
1991（平成3）年博士入

2023年１月、台湾の長庚大学経営学院と九州大学経済学部は交換留学生プログラムを締結しました。この締結に際しては、私が九州大学大学院経済学研究科の博士課程で学んでいた時期（1990－1995年）に知り合った九州大学経済学部の現教員の方たち（大石桂一学部長、内田交謹副学部長、大坪稔先生など）のおかげで、契約を短期間でスムーズに進めることができました。心から感謝申し上げます。

九州大学で過ごした５年間は、私の人生のなかでも非常に楽しい時期でした。指導教員の丑山優先生は学生の指導に非常に熱心で、同じ研究室の先輩であった牟田正人先生（九州産業大学）、池上恭子先生（熊本学園大学）、市村誠先生（中央大学）など、皆私を含む後輩の世話をよくしてくれました。そのおかげで、私は楽しく充実した留学生活を九州大学で過ごすことができました。

５年間の留学期間のうち、最初の３年間は台湾松下電器会社から奨学金を、後の２年間は日本生命財団の奨学金を得たため、生活費について心配することなく研究に専念することができ、博士号を取得することができました。松下電器と日本生命には、このような経済的な支援を提供してくれたことに、非常に感謝しています。私と同時期に九州大学で学んだ同級生の中には、現在、国立嘉義大学の学長や国立成功大学の副学長を務めている方もいます。彼らも日本交流協会の奨学金などを得ていました。このような支援は、私を含め多くの留学生が母国に帰国した後、母国に重要な貢献をすることを可能にしたものと思います。

さて、私が学院長を務める長庚大学経営学院では、ベトナム、タイ、インドネシアなどの東南アジアから、そして中南米やアフリカなどの国からも多くの学生を受け入れています。長庚大学はこれらの国の学生に奨学金、ティーチングアシスタント、インターンシップなどの機会を提供し、専門的なスキルを学び、卒業後に自国で社会に貢献できるよう支援しています。

台湾では最近、少子化問題が深刻化し、大学の入学者数が年々減少しています。そのため、政府は東南アジアの優秀な学生を台湾に呼び込むための新たな南向留学生戦略を打ち出しており、世界トップ500校の卒業生であれば、卒業後に台湾で就労ビザを取得することができます。長庚大学は世界トップ500校に入っているため、卒業生は台湾に滞在して働くことができ、このことが台湾で働きたい海外の学生を長庚大学に引き付ける一因となっています。

台湾では近年、賃金の伸びが鈍化し、貧富の格差の広がりが深刻化しています。そして、このこ

丑山ゼミ合宿：船小屋温泉共和国、1993年
前列左から筆者、王　忠毅先生（現西南学院大学教員）、国王（九大出身）、丑山先生
２列目右から２人目大坪先生

とが台湾の若者の「横たわる」（do nothing）傾向という問題を引き起こしています。政府、企業、大学はイノベーションと起業をすぐに主張しますが、付加価値を生み出し、高い給与水準の雇用機会を創出することは一朝一夕には達成できるものではありません。

教育と実践との間のギャップは、台湾の大学教育に関してビジネス界から最も批判されているものの一つです。社会全体の給与水準を向上させたいのであれば、最終的には学校教育、特に大学教育の力を向上させなければならないのかもしれません。

桜島へ向かう船の中で　1991年12月
左から牟田正人先生、筆者、丑山優先生、市村誠先生

周知のように、企業の経営環境の変化は、学校のカリキュラム内容の変化よりもはるかに速く、今日の大学が直面する課題は、以前よりもはるかに大きいように感じます。長庚大学の経営学院では、提供しているカリキュラムが学生の就職ニーズに対応しているのか、そしてカリキュラム内容に最新の技術開発が含まれているのかどうか、常に自問自答しています。また、2023年には新たにデジタル金融科技学科を設立し、財務とデジタルテクノロジーを組み合わせた学際的なコースを提供しています。さらに、工商管理学科に新たにデジタルビジネスプログラムを設立し、デジタルテクノロジーとビジネス分析を組み合わせた学際的なコースの提供も開始しました。これらの新しい学科とプログラムにより、学生たちは台湾の社会で成功するために必要な専門知識を身につけることができます。これからも、長庚大学経営学院は時代とともに進化し、社会に貢献する人材を育成するための場となれればと思っています。

長庚大学はデジタル化、国際化、分野横断を重視しており、学生が入学した後、基礎研究力と就職力を強化するためにプログラミング言語と英語の教育を強化し、基本的な研究と就職能力を向上させています。また、長庚大学は学生ができるだけ早くAI（人工知能）について学び、専門分野でAIを応用できることを期待し、学生が使用できる無料のChatGPTのアカウントを1,000個提供しています。

もちろん、国際化の観点から長庚大学はヨーロッパ、アメリカ、日本、東南アジア諸国との交換留学生やデュアルディグリープログラムも強化しており、日本の大学や産業界との交流と協力の機会をこれからも増やしていきたいと考えています。これにより、相互の研究能力と競争優位性を向上させることを望んでいます。

2022年11月、卒業から27年後に再び伊都キャンパスの経済学部を訪問し、学術交流プログラムを議論した際には、大石研究院長をはじめとする先生方から温かく歓迎されました。学生時代から現在に至るまで、九州大学の教職員と学生たちからの深い温かさを感じています。

最後に、九州大学経済学部の先生方や同窓生の皆様に深く感謝申し上げます。長い間、学生の育成と後輩の指導に尽力していただき、また長庚大学経営学院へのご支援とご協力に感謝申し上げます。

リレー随想

福岡における会計専門職育成の取り組み
ー九大経済の学びとつながりを活かしてー

西南学院大学　商学部准教授
原口公認会計士事務所　公認会計士
原口　健太郎氏
2016（平成28）年博士入

1．自己紹介プラスアルファ

2019年３月博士課程修了の原口健太郎です。ご縁があり、「リレー随想」に寄稿させていただくのは２回目となります。

2004年３月に九州大学理学部にて修士（理学）を取得した後、NTTデータ・長崎県庁・会計検査院

での勤務を経て、2016年４月に経済学府に再入学して大石桂一教授（現・経済学部長兼研究院長）にご指導を頂き、博士（経済学）を取得いたしました。現在は、西南大商学部にて教員を勤めており、会計学コース責任者として会計教育に従事する傍ら、2023年に公認会計士登録を行い、公認会計士としても活動しています。

ここに至るまでに私が九大にどれだけお世話になったかは、前回の寄稿（第71号）の紙面をお借りしてお話させていただきました。公刊後、「なぜ田島寮のことを書かないのか」（田島寮後輩）、「県庁生活と教員生活の違いをもっと詳しく書いてほしい」（長崎県庁同僚）、「夫婦の写真が掲載されていたが、交際相手から連絡が来なくなったことについてどう思うか」「そんなことよりも定期試験の内容を教えてほしい」（現役学生）などと、思わず各方面から様々な反響が寄せられました。確かに、これらの内容は、一部を除き、前回の紙面にぜひ含めたいと思ったものの、紙幅の都合で泣く泣く省略したものばかりです。

特に、十数年前に取り壊された田島寮での特色ある生活を詳細に記載することは、九大の歴史上もごく若干ながら意義を有するものと考えられ、今回頂いた字数を全てそちらに費やすことも検討いたしました。

しかしながら、例えば、本来は禁止条項が「土足厳禁」１条しか存在しない「寮則」を、新入生配布版に限って「寮長の許可なき外出を禁ず」「寮長の定めた懲罰にはすべからく従順すべし」等、到底認容できない条文を大量に含む「ニセ寮則※1」として改変し、最初の３日間だけは本当に運用するイベント「ウソコン」等に関して詳細に記述することが、九大経済のさらなる発展を趣旨とする本紙のカラーと整合しているか否かについて確信を持てませんでしたので、今回は、私が西南大着任後、九大とも協力して取り組んでいる会計専門職育成に関してお話したいと思います。

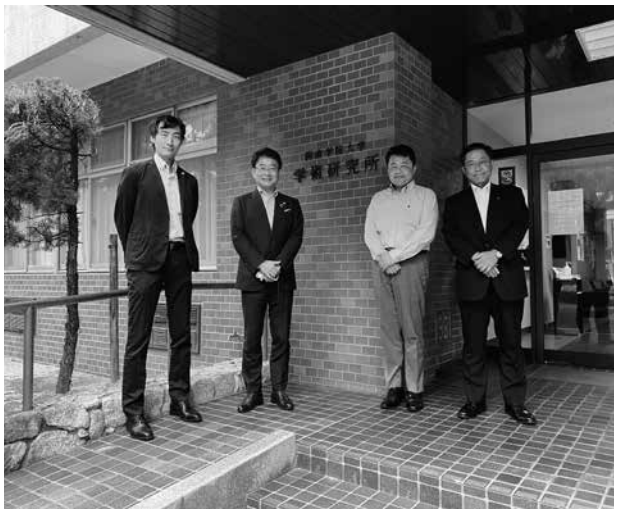
※１…５条の本則と３条の補則からなる。土足厳禁条項だけは真の寮則と共通する。「寮長が定めた懲罰」の現実味を高めるため、ウソコン期間中は、放送室の窓に暗幕を張って中を見えなくしたうえで、表札を「懲罰室」に差し替える。寮長権限を副寮長等に委任する決裁規定は存在せず、書面決裁の仕組みもないため、寮長は新入生約100名の外出全てを自ら対面して決裁する必要がある。もっとも、当該期間中、寮長は多忙を極めてつかまらないので、入寮後３日間、新入生は事実上外出禁止となる。

２．会計専門職育成の取り組み

会計専門職とは、一般に、公認会計士や税理士のことを指します。経済社会の発展と複雑化に伴い、会計・監査や税務に関する専門職の需要は一層高まっています。しかしながら、福岡地区の合格者数は決して多くないのが現状です。例えば、2022年の公認会計士試験合格者を見てみると、全国の合格者1456名のうち、福岡財務支局区分で受験した合格者はわずか33名です。経済規模や地元監査法人の採用需要を踏まえると極端な不足は明らかであり、これを増加させる社会的意義は大きく、高等教育機関である大学が果たすべき役割も従前に増して重要となります。ここでは、私が日々の教務の中で取り組んでいることを３点ご紹介します。

（１）日本公認会計士協会北部九州会との連携

先述の通り、私自身が公認会計士登録し、現在、日本公認会計士協会北部九州会に所属しています。協会所属のメリットを最大限に生かし、情報収集やネットワーク形成を推進することで、会計・監査実務における最新の情報を講義・演習に反映するとともに、会計専門職を志望する意欲ある学生に対し、実務等に関するより具体的な指導を行います。さらに、北部九州会との繋がりを活かし、学外の公認会計士を招聘して講演会や共同演習を行うなど、各種の企画を通じて大学と実務との知見の共有を図り、大学教員兼公認会計士として独自の価値創出を目指します。北部九州会の宮本義三会長は九大経済の津守常弘ゼミのご出身で、津守先生の門下である大石先生から博士号を頂いた私とは同門にあたることから、九大経済OBとしても様々な場面で連携を実現し、九州経済の健全な発展に貢献したいと考えています。



西南学院大学学術研究所前にて。左から原口、日本公認会計士協会北部九州会の宮本義三会長、久保英治渉外委員長、堺昌義広報委員長。2023年８月25日撮影

（2）大学内に公認会計士事務所を設立

大学の許可を得たうえで、原口公認会計士事務所を開設いたしました。西南学院大学学術研究所の原口研究室が登録上の事務所となります。

残念ながら、医師や弁護士等と異なり、多くの学生にとって公認会計士は一般に縁遠いものであり、入学時点では一切の知識を持たないことがほとんどです。教員が自ら学内に事務所を構えることで学生の興味関心を引くことができ、ひいては挑戦者の増加につながるのではと期待しています。将来的には、単なる啓蒙活動に留まらず、ゼミ生等を事務所のメンバーに巻き込むなどして、公認会計士としての学外活動も少しずつ本格化できればと思っています。

大学の研究室を個人事務所として兼用する取り組みは全国でも珍しいと思われます。私立大学ならではの柔軟な運用に快く応じてくれた西南学院大学の事務局に、この場を借りて深く御礼申し上げます。

（3）西南公認団体サークル「第一国家試験準備室」

西南学院大学では、伝統的に、公認会計士・税理士を目指す学生は、公認団体サークル「第一国家試験準備室」に所属して学習を進めてきました。しかしながら、ここ数年間は部員数が０名で休部状態であったところ、近年、特に公認会計士志望者が急増していることから、原口ゼミ生が中心となって、2022年４月にサークルを再結成しました。私が九大でも非常勤として教えていることもあり、九大等近隣の学生も学外から参加して一緒に勉強しています。再結成後１年を経て、現在の参加者数は西南・九大生を中心に59名となり、西南有数の大規模サークルに成長を遂げました。

さらに、地元監査法人所属の試験合格者等に準備室の「アドバイザリー・ボード」として参画を促し、学生とのディスカッションや懇親会等のイベントに参加を頂いています。将来的には、本準備室の部員から多くの合格者を輩出し、アドバイザリー・ボード就任を通じて、卒業生を含めた縦の繋がりを作り出し、後進育成の体制を構築するとともに、アドバイザリー・ボード同士の交流の場としても機能させたいと考えています。

３．おわりに※2

周知のとおり、福岡は九州の中核都市としてはもちろん、全国でも有数の経済発展都市として注目されており、会計専門職の需要が今後さらに高まることに関して疑う余地はないと確信しています。

幸い、西南学院大学は立地や学生の質に恵まれ、専門職育成や実務家との交流等の取り組みを推進するにあたり、福岡で最も恵まれた条件が揃っていることから、九大・西南の連携により様々な取り組みが可能となります。九大経済出身者として、両校を会計専門職の育成・交流の拠点とすべく、微力を尽くしてまいります。先輩の皆様方には、今後とも温かいご支援・ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

※２…上記取り組みのご見学等に関しては，下記までお気軽にご連絡ください。
haraguch@seinan-gu.ac.jp

リレー随想

ターニングポイント

日本M＆Aセンター
公認会計士
佐潟　直弥氏
2010（平成22）年卒
2012（平成24）年修士修了

私は2006年に経済経営学科へ入学しました。私含め、サッカー等で有名な東福岡高校OBの３人で固まっていると、入学後すぐに友達が増えていきました。１～２年生までは六本松で教養科目、３～４年生では箱崎で専門科目を履修しましたが、青春時代を過ごした想い出のキャンパスは、今はどちらも残ってないため少しばかり寂しいです。

学部３年生～修士までは稲富先生（証券市場）のゼミに所属しました。ゼミ卒業生には税理士や裁判所事務官等の合格者がいらっしゃって、先生もゼミでの学習と資格試験の両立を応援して下さいました。院では外国語論文が増え予習に非常に時間を要していたため、会計士試験との両立をしっかり意識して過ごしました。ゼミに限らず友人達は試験合格を応援してくれて大変な励みとなり今でも感謝しています。

院生の頃、授業のことで話をするようになった女性がいました。３年次編入してきたという彼女とは図書館でもよく会うようになり顔見知りとなってからは、授業のノートを貸したり雑談をしたりするようになりました。この女性とはその後運良く交際が始まり、共に上京し就職後に結婚することとなりました。2023年現在、既に約12年連れ添っています。当時はお互い受験生で、彼女は国税専門官に、私は

公認会計士になるべく勉強に励んでいました。学生時代について諸々全く書き足りませんが、紙幅の都合で社会人生活に移ります。

2011年11月、合格発表の日、期待と不安の入り混じる中、金融庁のHPで何とか自分の受験番号を確認し合格を認識すると、実家の階段を駆け下りリビングに居た母親へ感謝の言葉を口にしました。その後すぐに航空券をとり、翌日からの就職活動のため東京へ。１年前に合格し就職していた九大経済の親友にも連絡してその日の夜には合流し、約１か月もの就職活動の間彼の家に泊めてもらいました。合格率も例年に比べ非常に低かったうえに、リーマンショックの余波もあり、当時約1,500人の合格者のうち更にその約半数しか、Big４と呼ばれる大手監査法人へ入れないという状況でした。12月初旬、何とか第１志望の内定を勝ち取って福岡へ戻り、朝から晩まで毎日修士論文と向き合いました。バタバタと書き進めた論文でしたが稲富先生の温かい御指導の下、何とか提出と修了の目処が立ち、先生の許可を得て卒業前の１月末から新人研修のため東京生活を始めました。

2012年４月、入所当初は難しい「監査」という仕事に辟易としていましたが、毎朝「もしかしたら今日は仕事ができるかも知れない」と自分に言い聞かせながら現場（クライアント先）へ行き、スパルタ女性主査（現場統括：若手にとって直属の上司）に１日中詰められる、という毎日を過ごしていました。３年目ほどでやっと仕事にも少し慣れ、５年目には難易度の高い海外企業の日本子会社の主査や上場大手製薬企業の主査を任されるようになった頃、待望の第一子も産まれ、充実感と幸福感が絶頂に達する一方で、ストレスは極限状態となり体力と睡眠時間は人としての生活の最低レベルまで落ちました。大きな失敗もなく、ストレートでマネージャーに昇格し、第二子も産まれ、管理職としての働きやすさを得る一方で、責任やストレスも更に増え、よくある「中間管理職」となった訳でした。

退職前にオフィス前で子供達と記念撮影

さて、巷では監査法人は激務で有名かも知れません。11年間を大手監査法人で過ごした私の率直な感想としては正にそのとおりでした（上司やチームにも因りますが）。ただ、データ抽出・加工等、従来手作業で行っていた単純作業は、AIやRPA、オートメーションに代替でき、これらを活用し公認会計士の時間を増やすべく、どのBig４も多額の資金を投入し技術革新を図ってきました。マネージャー昇格後は、AI等を活用した監査ツール開発部署も兼務しました。多くの士業がAIに取って代わられる職業と言われることもありますが、寧ろ積極活用していくトレンドがありました。例えば、AI等を利用し単純作業は自動化することで、人間（公認会計士）にしかできない高付加価値業務に注力できるし、そうすべきだ、というのがよくある議論、というか各々考えればすぐに誰でも（議論の余地もなく）分かることでした。

36協定順守も厳しくなり、コロナで急激に進んだリモートワークで激務は緩和されていきました。私の場合、平日の睡眠は短くて１～２時間、長くて４時間、という生活を送っていましたが、移動に費やしていた時間を仕事や睡眠、子供達との時間に充てることができ、生活は格段に改善しました。所属する監査法人のパーパスには共感するその一方で、改

左から首藤洋志氏（友人）、佐潟（白川）恵子（妻）、佐潟直弥（本人）、濱佳織氏（友人）

善されたとはいえ激務には変わりない監査業界から出ようという想いと、マネージャー４年目で35歳となるこのタイミングで新しい畑に行くのはラストチャンスだと考え、思い切ってM&Aの世界に入りました。

現在の会社では、M&Aにおける専門家として会計や財務、税務の観点から営業コンサルタントへ助言を行う品質管理の部署に所属し、日々あらゆる中堅中小企業の事業再生や事業承継を含むM&Aに関与し、監査法人とは違うやり甲斐を感じているところです。

上記のとおり、私の社会人生活は士業としてスタートし今も奮闘中ですが、思い返せば少年時代は友人とサッカーやゲームばかりしていた私にとって、超優秀な友人や素晴らしい先生方に囲まれて過ごすことのできた修士を含む九州大学での６年間は、正に人生のターニングポイントだったと言えます（結婚相手とも出逢いましたし）。大切な時間を与えてくれた九大に感謝です。

末筆となりますが、東京支部同窓会でお話する機会があり、この度リレー随想の寄稿という貴重な機会を頂きました藤原さんに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

もし「M&A」や「公認会計士」に興味があれば、お気軽にご連絡下さい。
naoya.sagata@gmail.com

リレー随想

タイへの交換留学から振り返る　九大への感謝

東芝エネルギーシステムズ株式会社
西原　貴史氏
2014(平成26)年卒

（1）自己紹介

はじめまして。2014年経済・経営学科卒業の西原と申します。在学中は清水ゼミ、久原ゼミでお世話になりました。同窓会報へ執筆させていただく機会を頂き大変感謝申し上げます。今回は、在学生の方で読まれる方もいらっしゃるということでタイ・タマサート大学への交換留学を振り返るテーマで書いてみたいと思います。

タマサート大学の特徴ある講堂
日本から来た友人と（右端が筆者）

（2）私が大学生のころ

私は2012年８月から10か月タマサート大学へ交換留学をしました。当時の状況を説明いたしますと、伊都キャンパスが２年目のころ、iPhoneでいうとiPhone４が爆発的に流行り、FacebookやLINEなどのSNSや、格安航空会社（LCC）が世の中に広まりつつある時期でもあり、外国為替は１＄＝80円、いろいろと恵まれたタイミングで留学することができました。

（3）苦労した留学準備

タイに限らずですが、留学を行う場合、TOEFL iBTという試験で基準点を超えないといけないので、英語がさほど得意ではなかった私は、箱崎から伊都キャンパスに移動していた電車の中や、現在は無くなってしまった箱崎キャンパス農学部前の中央図書館でそれなりに勉強した記憶があります。この試験、留学した先の大学の授業でも落ちこぼれずについていけるかという視点があるので、専門性が少々高くアカデミックな試験でした。例えば、火山が噴火する仕組みとか、虹ができる理由など、高校の理科で習うテーマの内容がスピーキングでもリスニングでも普通に出題されていて苦労しました。大学の成績（GPA）も選考過程では重要な判断材料でしたから、伊都キャンパスでの全学教育の授業もなるべく欠席はしないようにはしていました。タイへの交換留学を行う前の春休みに、短期留学プログラムのASTWへ参加し、フィリピンのアテネオ・デ・マニラ大学で英語力の強化の足固めを行いました。

（4）タイでの学生生活

タイでは大学まで制服があるので、制服を購入し

て通学していました。私が住んでいた場所はチャオプラヤー川をはさんでタマサート大学の対岸にありました。大きな橋もあるのですが遠回りでしたので、チャオプラヤー川をおよそ10円の渡し舟で渡り通学していました。制服を着用して渡し舟で通学、これでタイらしさが読者の皆様にも目に浮かぶかなと思います。タイでは大学の勉強でなく、仲良くなれた留学生と近隣諸国へ旅行するなど本当に素晴らしい体験ができ、５年分くらいの濃さがありました。事前に聞いていたことですが、欧米に留学するとアジアからの留学生が多く、アジアに留学すると欧米からの留学生と仲良くなりやすいです。大学によるかもしれませんが、留学生は現地の学生よりも留学生同士で仲良くなりやすいので私も欧米からの留学生と仲良くなりました。

留学生との歓談の一枚、中央が筆者

（5）現地で感じた語学の向上とは

大学の授業は英語で聞いていましたが、英語力が向上したなと思ったきっかけは、授業をたくさん受けたからというよりは、夜に欧米からの留学生の友達とお酒を飲みながら談笑したり、旅行に一緒に行ったりしたことが理由として大きかったように思います。例えば、友人と旅行するとして、目的地や集合する場所や時間など、聞き間違えてそのまま旅行してしまうと異国ですからいろいろと大変ですよね。ですから必ず聞き返したり、重要なポイントは間違えないようにする癖をつけておくことで、英語力が上がったのかなと思います。そして、もう一つ大事な視点で、日本で生活している以上英語に触れる機会といっても、何かしら努力が必要ですが、例えば英語の字幕の映画を見に行ったり、日本では見たことのある全く同じアニメを英語版で聞いたりするなど、生活の中で自然と英語を使う機会が生まれることでスキルアップしたのかな、と思います。

タイでは日本と同じくらい英語は使えないので、現地に行ってから生活のためにタイ語は勉強し始めたのですが、まぁ最初は苦労しながらも食べ物の名前や日常会話をある程度マスターしていれば、生活で使っていれば何とかなるものです。大学の授業だけではタイ語はマスターできないなと思ったので、平日の授業終了後は現地の語学学校でタイ語を集中的に学び、タイ語が書けるレベルには一応なりました。一方で、日本語を使う機会、特に漢字を書く機会や敬語を使うタイミングは全くなかったので、帰国直後、日本語力は落ちたと思います。

残念ながら今の生活は英語もタイ語も使わないので留学時に磨いたスキルは落ちてしまっていますが、一番言いたいことは現地で生活して外国語を使う時間を増やすことが語学の向上につながるということです。

（6）社会人になってから

仕事でタイに行ったことは今のところありませんが、社会人になってからも第二の故郷として友人に再会、コロナ前はタイへ１年に１回くらいは訪問していました。九州人はなかなか九州から出たがらないといわれていますが、海外になると常識からそもそも違うことが生活してみたことで現実感をもってわかってくる部分があります。海外生活も、できれば何か国か訪問することで、例えば日本とタイ、タイと韓国、韓国と日本…という具合に多面的に比較できるようになりますので、かえって日本のことがわかってくるという部分もあります。

（7）結び　御礼にかえて

こう振り返ってみると交換留学で多くの学びや経験がありました。私は４年でストレート卒業したのですが、今ではもったいないと思っているくらいで留年してもう一回留学しておけばよかったと後悔しています。九大は留学に関しては制度として非常に恵まれている環境にあると思います。留学を推進している九州大学で勉強できたことはよい財産になったし本当に感謝しております。ここまでお読みいただきありがとうございました。何かしら考えるきっかけや気づきになっていただけましたら幸いでございます。

リレー随想

社会人としての第一歩

TOTO株式会社
金　宇ソク氏
2018(H30)年修士修了

2018年に九州大学を卒業し、TOTO株式会社に入社した金（キム）と申します。この度、同窓会報に私の経験を投稿する機会をいただき誠にありがとうございます。

好奇心で始めた日本生活がもう７年目になります。最初、日本に興味を持ったのは、高校生の時、友人から薦めてもらった日本のドラマがきっかけでした。ドラマの中には、学生なのに髪を長くし、金髪に染めた高校生がいました。韓国の高校生は、ほぼ髪の毛は坊主で短い髪の毛にするのが当たり前でしたが、隣の国の学生はものすごく自由そうに見えました。そのような生活を覗いてみたいと思い、一度日本に行ってみたいと思いました。

高校卒業後、大学に進学し、兵役を終えた大学３年生の頃、日本で交換留学をしました。日本での交換留学を始め、毎日新しい文化・言語に触れながら、楽しく生活しました。特に大学のゼミでは経済に関するテーマを日本語でディベートし、勉強することに、楽しさを感じました。その経験からもっと日本でいろんな経験をしたいと思い、九州大学大学院への進学を決めました。

大学院での研究生活は学部での勉強とは違い、テーマを決め、より深くテーマに関して研究しておりました。特に農業経済分野を研究していたので、

農家を訪問し、ヒアリングを重ね、修士論文を執筆し、修士号を習得しました。

その後は、日本での経験もあり、海外で通用する人材になりたいと思い、TOTO株式会社に入社を決め、社会人としての第一歩を踏み出しました。

入社後は営業所へ配属されました。日本語には自信がありましたが、外国人として、国内営業マンは簡単ではありませんでした。特に現場用語がわからず、現場訪問の際には、自分なりに商品のおさまりなどのチェックポイントを把握してから行ったにも関わらず現場で工務店様や大工の方の話の内容がまったくわからず最初は苦労の連続でした。これでは仕事になりません。何がなんでもこの難所をクリアしたいと思い、社内の現場調査を担当している部署に協力をあおぎ、現場に同行してもらうなどして商品のおさまりや施工方法など、少しずつ知識を増やしていきました。そして同時に、パートナーの販売会社様を味方につけて新規開拓を行うノウハウも身につけていくと、お客様から信頼されるようになりました。４年目に別の営業所へ異動しましたが、この当時のお客様とは今でも会食する仲です。

また、今でも印象に残っている経験は、入社２年目にショールームイベントを任されたことです。当時は、日々の営業活動に手一杯で、同時にイベントの準備にも取り組むことは、自分にとって非常に難しいことでした。なんとかお客様の満足を得られるよう、今までにない新しい内容にしようと考えたのですが、次第に開催時期が迫ってきて時間切れに。結局、代わりに上司にお願いすることになってしまいました。自分の業務処理能力、段取り力の無さを思い知って、悔しく反省もしました。その後は、その経験から、一人で抱えず、周りの人に相談するなどまわりを巻き込んで、段取りよく進めていく手法を身につけていくことができたのは、この時の経験があったからこそだと思います。

このような国内での経験を終え、もともとの目標であった海外で通用する人材になる夢を実現するために、現在は、アメリカに出向し、アメリカでTOTO商品を拡販するために、販売活動をしております。やはり国内での経験と同じく、大変な仕事の連続ですが、さらなる成長のために毎日頑張っております。

新社会人として足を踏み出す方は、新しい環境で苦難の連続だと思いますが、それをクリアすることが自分の成長につながりますので、頑張ってください。

人物往来
～新教員紹介

阿部　貴晃（たかあき）　講師

【担当講義】
学部：「経済工学演習」
「応用ミクロ経済学」
「ミクロ経済学I・II」
学府：「応用ミクロ経済学特研I」

【自己紹介】

2023年に着任しました阿部貴晃と申します。兵庫県の出身で、大学以降は東京で過ごしておりました。九州には学会や旅行などで何度も訪れていましたが、この着任で初めて在住することになります。よろしくお願いいたします。

専門は、ゲーム理論とその経済学的応用です。ゲーム理論は、応用数学として1900年代前半に誕生し、経済学をはじめとして、工学・心理学・生物学など様々な分野に応用されている分野です。ゲーム理論では、複数の人が関わる意思決定を数学的に分析します。試しに、この記事を読んでくださっている皆様で、次のような「ゲーム」を考えてみたいと思います。各読者は、０から100までの数字から一つを選んで、事務局へ応募します。事務局の方が、応募された数の平均を計算して、その平均に0.7をかけます。その値（つまり、平均×0.7）に最も近い数を送っていた読者に賞金をプレゼントするというものです。さて、あなたなら数字としていくつを選びますか？残念ながら今回の号で実際に賞金がでるわけではなさそうですが、ゲーム理論ではこのように多くの人の利害が絡みあう状況での先読みや駆け引きを分析します。そのような利害の対立や一致は、私たちの社会や経済活動の中でありふれていると言ってもよいものです。一見複雑な利害関係も、ゲーム理論のレンズを通すことによって、その背後に潜んでいる構造や一般性まで見通すことができます。授業や研究を通して、身の回りの現象をゲーム理論的に観察するという面白さを共有していきたいと考えています。

さて、先ほどのクイズの「答え」を書こうと思っていたのですが、どうやら紙幅に余裕がありません。ご関心を持たれた方は、当授業を経験した（そして無事に単位を取った）今後の卒業生に尋ねてみてください。

中石　知晃（なかいし　ともあき）　講師

【担当講義】
学部：「統計計量分析」
学府：「上級統計計量分析」
「上級統計計量分析特研Ⅰ・Ⅱ」

【自己紹介】

2023年４月に経済学研究院に着任した中石知晃と申します。この場を借りて、皆様へご挨拶申し上げます。

私は学部時代から九州大学経済学部に在学し、一昨年度末に同大学経済学府・博士後期課程を修了しました。その後は、同大学のカーボンニュートラル・エネルギー国際研究所にて研究員として従事し、現在に至ります。主な専門分野は、環境経済学や資源・エネルギー経済学であり、「経済学×データサイエンス」をテーマに、「持続可能な生産と消費」の実現に向けた方法について、生産者と消費者の両視点から研究を行っています。

出身は福岡県の吉富町という九州で一番小さな町なのですが、幼少期から多くの時間を隣接する大分県中津市で過ごしました。実家は県境の橋から徒歩３分の場所にあり、個人的には大分県出身という意識も強くあります。初対面の際には、知名度の差も考慮し「（唐揚げの有名な）大分県中津市出身」として自己紹介することが多いです。実家の近くには、『学問のすゝめ』の著者で慶應義塾の創設者として有名な福沢諭吉先生の旧居があり、幼少期には祖父に連れられてよく周辺を散歩しました。

話は変わりますが、福沢先生の旧居北側には瓦ぶきの土蔵があり、そこの２階部分は福沢先生自身が改造した手製の勉強場として使用されていたそうです。子供の頃はその空間の窮屈さにあまり実感が湧きませんでしたが、大人になって再度訪れると、立つことさえ困難なほどの狭さを感じます。祖父は私が蔵の２階に登る際、転げ落ちないように見守ってくれながら、「福沢先生のように一生懸命勉強し、人々の役に立つ立派な人間にならんとね」といつも言い聞かせてくれました。それから、二十年以上の歳月が経ち、私もついに福沢先生と同じ「先生」としてのスタートラインに立つことができました。研究者としての社会的使命感と教育者としての責任感を胸に、これからの本学での責務を全うしていきたいと思います。皆様のご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

九州大学経済学部　国際学術交流振興基金執行状況報告（2022年度）

2021年４月より国際交流委員長を務めております瀧本　太郎（たきもと　たろう）と申します。同窓会の皆様には、本学の発展のため平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

コロナ禍も４年目に突入し、2023年５月８日から「５類感染症」に移行したこともあり、徐々に日常が戻りつつある状況かと推察しますが、急にコロナ前に戻るわけもなくバランスを探りながらの生活となり、皆様におかれましては、日常生活において引き続き大変なご苦労を重ねられていることと推察します。

このような状況下における国際交流についての動きですが、内閣総理大臣を議長とする教育未来創造会議の二次提言が2023年４月27日に出されました。そこでは、量を重視するだけでなく質の向上についても言及されており、今後の方向性として、日本人留学生（アウトバウンド）の増加、特に大学院生の学位取得の推進を掲げています。外国人留学生の受け入れ（インバウンド）では、受け入れ地域の多様化に加え学部段階や高校段階での受け入れの促進を考えています。

実は我々はすでにこのような方向性を意識して議論を進めてきたところです。経済学府のアウトバウンドとしましては、中国人民大学とダブルディグリープログラムを行っており、現在修士２年生の柳本健太郎さんがまさに中国人民大学からの修士号取得を目指して頑張っているところです。また、ジョイントディグリープログラムやダブルディグリープログラムの新規開拓についても、学部レベルでの交換留学の促進とともに議論をしているところであります。一方、インバウンドでは、JICAによる「アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ（ABEイニシアティブ）」プログラムと「SDGsグローバルリーダー」プログラムに参加していることもあり、特にアフリカ諸国からの留学生を多く受け入れている状況で、彼ら彼女らが部局の国際化の一端を担っているところです。講義によっては英語をメインにしているものもあり、伊都キャンパスにいながら留学体験ができるような環境になっています。

それでは、2023年度の国際学術交流振興基金の執行状況について報告させていただきます。学生海外派遣（アウトバウンド）に関して、学部生の若松陽奈さんの国立台湾大学への留学奨学金として本基金を利用させていただきました。２年ぶりとなる国立台湾大学への学生派遣でしたが、本基金によるサポートもあり、無事に留学を終えております。これまで本基金はアウトバウンド、インバウンドの活性化にとって極めて重要な役割を果たしており、今後とも部局の教育・研究の国際化に向けて本基金を戦略的・計画的に利用させていただければと考えております。

現在部局間交流協定は、中国人民大学、国立台湾大学、シンガポールマネジメント大学、台湾・長庚大学と締結しており、シンガポールマネジメント大学からの交換留学１期生が半年間私のゼミで学んでいました。７月には19日間にわたり５名の学部生が中国人民大学のサマースクールに参加し、北京で貴重な体験を積んできました。また、学部国際コースであるGProE生２年生が、８月から９月にかけてオーストラリアのTAFEクイーンズランドにて５週間の語学研修に参加予定です。コロナ禍でオンライン会議が世界的に広まったことにより、長距離の移動をせずに世界中の人と話をすることができるようになりましたが、一方で直接対話することにより構築される信頼関係は依然としてなにものにも代え難いことが明らかになってきています。留学から帰国した学生の声もまさにこのことを雄弁に物語ってくれており、学生の国際交流は一気に対面に戻りつつあります。部局としましては、本基金の利用により経済学部生・学府生のアウトバウンドを支援する体制を整えているところです。同窓会の会員の皆様もどうかお身体には十分ご自愛いただきながら、アフターコロナを見据えた道を模索いただけますと幸いです。今度とも引き続きより一層のご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

【国際交流委員長　**瀧本　太郎**】

国際学術交流振興基金による活動状況報告（2022年度）

申請者	内　容	期　間
【　海外派遣　】		
若松　陽奈（学部生）	※院生等の交換留学支援 国立台湾大学への留学支援（奨学金）	2022年９月～2022年12月 （４か月間）

令和４年度決算報告

収支計算書　令和４年４月１日～令和５年３月31日

（単位：円）

収入の部	予算	決算	差異
会費収入	7,500,000	6,399,505	△ 1,100,495
（会員）	3,000,000	2,178,505	△ 821,495
（学生会員）	4,500,000	4,221,000	△ 279,000
負担金収入	730,000	613,000	△ 117,000
教員年間総会費	530,000	530,000	0
卒業祝賀会会費	200,000	83,000	△ 117,000
雑収入	63,000	2,277,416	2,214,416
受取利息	1,000	416	△ 584
名簿売上	12,000	0	△ 12,000
広告料	50,000	0	△ 50,000
寄附金	0	2,277,000	2,277,000
当年度収入計	8,293,000	9,289,921	996,921

支出の部	予算	決算	差異
事業費	2,930,000	2,509,486	△ 420,514
会報発行費	1,700,000	1,649,039	△ 50,961
卒業祝賀会	1,100,000	737,547	△ 362,453
卒業記念品費	120,000	99,800	△ 20,200
名簿代	0	23,100	23,100
会員加入促進費	10,000	0	△ 10,000
運営費	5,785,400	5,635,394	△ 150,006
事務局員費	1,505,400	1,505,400	0
会議費	10,000	63,316	53,316
通信費	1,500,000	1,457,675	△ 42,325
支払手数料	50,000	57,022	7,022
旅費交通費	1,050,000	900,400	△ 149,600
消耗品費	70,000	109,756	39,756
消耗雑費	50,000	41,825	△ 8,175
支部運営費	1,550,000	1,500,000	△ 50,000
負担金	100,000	100,000	0
支部総会会費（教員）	100,000	100,000	0
当年度支出計	8,815,400	8,244,880	△ 570,520

当年度収支差額	△ 522,400	1,045,041	1,567,441
前年度繰越収支差額	4,927,332	4,927,332	0
正味会費納入金から繰入	0	0	0
正味会費納入金へ繰入	0	0	0
次年度繰越収支差額	4,404,932	5,972,373	1,567,441

貸借対照表　令和５年３月31日現在

（単位：円）

科目	金額	科目	金額
現金預金	30,336,922		
現金	28,796	前受金	2,590,000
普通預金（西日本シティ）	3,757,153	負債合計	2,590,000
普通預金（西日本シティ２）	137,602		
普通預金（福　岡）	1,448,307	正味会費納入金	21,774,549
郵便貯金	209,536	前年度繰越高	21,774,549
郵便振替口座（通知）	2,944,455	一般会計へ繰入	0
定期預金（西日本シティ）	21,811,073	一般会計から受入	0
		次年度繰越収支差額	5,972,373
		正味財産合計	27,746,922
資産合計	30,336,922	**負債・正味財産合計**	30,336,922

令和４年度卒業生就職状況　（掲載不同意者除く）

令和５年３月31日現在、(　)は女子で内数

学部	
就職先	人数(　)
ADKホールディングス	1（1）
DXCテクノロジー・ジャパン	1
EYストラテジー・アンド・コンサルティング	1
EY新日本有限責任監査法人	3
G.Aコンサルタンツ	1（1）
IHI	1（1）
JFEスチール	2
JR九州システムソリューションズ	1
MJC	1（1）
NTTデータCCS	1
SCSK	1
SMC	1
TIS	1
TOTO	1
Uber Eats Japan	1
アイペット損害保険	1
アクセンチュア	3（1）
アゲハ	1
麻生	1
アフラック生命保険	1
アマゾンジャパン	1
アルム	1（1）
飯塚市	1
伊藤忠商事	2
インターネットイニシアティブ	1
応研	1
大阪いずみ市民生活協同組合	1
大村市	1
大分市	1（1）
岡三証券	1
カチタス	1（1）
川崎重工業	1
かんぽ生命保険	1
キーエンス	1
キヤノン	1
九州電力	4（2）
京セラ	1
熊本市	2
経営共創基盤	1
経済産業省	1
国土交通省	2（1）
コストコホールセールジャパン	1（1）
コムウェア	1
西部ガスエネルギー	1（1）
佐賀県	2

就職先	人数(　)
サンブリッジ	1（1）
三十三銀行	1
周南市	1
住宅金融支援機構	1
商工組合中央金庫	1（1）
住友商事	1（1）
住友生命保険	2
正晃	1（1）
セールスフォースジャパン	1
積水化学工業	1（1）
セブテーニ・ホールディングス	3（1）
双日	1
損害保険ジャパン	1
ダイナム	1
大和アセットマネジメント	1
大和ハウス工業	1
大和証券	3
第一生命保険	2
竹中工務店	1
中部電力	1
データX	1
デロイトトーマツ税理士法人	2（2）
デロイトトーマツコンサルティング	1
デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザリー	1（1）
電通デジタル	1
トーマツ	1
東ソー	2
東海東京フィナンシャルグループ	1
東京ガス	1
動画工房	1
鳥取県	1
凸版印刷	1
トヨタ自動車	1
トヨタ自動車九州	2（1）
豊田自動織機	1（1）
トライアルカンパニー	1
西松屋チェーン	1
西日本シティ銀行	2
西日本鉄道	3（2）
日本銀行	1
ニチレイ・ロジスティクス九州	1
ニトリ	1（1）
日本アイ・ビー・エム	1（1）
日本トータル・システム	1
日本政策金融公庫	1
日本製鋼所	1

就職先	人数(　)
日本製鉄	1
日本中央競馬会	1
日本通運	2
日本電気通信システム	1
ノウンズ	1
農林中央金庫	2
野村総合研究所	1
野村證券	2
パナソニックハウジングソリューションズ	1
バンダイ	1
ビーネックスソリューションズ	1
日立システムズ	1
広島県	1
広島県信用保証協会	1（1）
フォーサイトシステム	1
福岡銀行	10（2）
福岡検疫所	1
福岡県	3
福岡市	3（2）
福岡地所	2
福岡労働局	1
福島県	1（1）
富士フイルム	1
富士電機	1（1）
ブラザー工業	1
プロジェクトカンパニー	1
ベイカレント・コンサルティング	1
ポーラ	1
ボストンコンサルティンググループ	1
マネーフォワード	1
みずほ銀行	1
三井住友銀行	3（1）
三井住友信託銀行	2
三井住友海上火災保険	1（1）
三菱UFJ銀行	1（1）
三菱ＵＦＪ信託銀行	1
三菱電機	2
明治安田アセットマネジメント	1
安川電機	1
ヨドバシカメラ	1
ラック	1
リヴァンプ	1
リクルート	1
りそな銀行	1
リンク・インタラック	1
リンクイベントプロデュース	1（1）

就　職　先	人数（　）
レイス	1
レバレジーズ	3（1）
和歌山県	1
ワンキャリア	1
学部計	188(40)

学　府	
就　職　先	人数（　）
Bank of Communication	1
BOE.com	1（1）
C&GValueDesign	1
Evalueserve	1
EYストラテジー・アンド・コンサルティング	1
EY新日本有限責任監査法人	1
Innoscilicon	1（1）
IQVIAジャパングループ	1（1）
JFEスチール	1（1）
Luvina Software Company	1（1）
NTTドコモ	1（1）
NECレノボ・ジャパングループ	1（1）
Pangara S.A.	1
QBキャピタル	1（1）
Southwest Futures	1（1）
TIS	1（1）

就　職　先	人数（　）
Vietnam Academy of Finance	1
アクセンチュア	2（2）
アッヴィ	1（1）
英進館	1
カズミル	1
九州大学	4（2）
九州電力	2
九州農水産物直販	1（1）
九州旅客鉄道	1
クレスコ	1（1）
コグニザントジャパン	1
国家緑色発展基金(中国)	1
佐賀銀行	2（1）
ジェイコム九州	1（1）
スルタンアゲンティルタヤサ大学	1（1）
全国農業協同組合連合会	1
ソフトバンク	1（1）
ダイキン工業	1
大和証券	1
タカギ	2
筑邦銀行	1
中国電信	1
デル・テクノロジーズ	1
東京海上日動火災保険	1

就　職　先	人数（　）
なぎのき製薬	1
西宣	1
日鉄エンジニアリング	1
日本アイ・ビー・エム	1
日本メドトロニック	1
日本ロレアル	1（1）
ビジョンバイオ	1（1）
福岡県	1（1）
福岡信和病院	1
富士通	2（1）
ベガコーポレーション	1
ポケモン	1（1）
ミスミグループ本社	1（1）
三菱UFJ信託銀行	1
三菱総合研究所	1
三菱電機住環境システムズ	1
南日本放送	1
明治安田生命保険	1
元岡中小企業診断士事務所	1
ルネサスエレクトロ	1（1）
华友钴业	1
拼多多	1（1）
学府計	70(29)
総計	258(69)

九州大学経済学部同窓会役員名簿　（カッコ内は卒業年次～昭和、ただしHは平成）2023年９月

役　員	氏　名	
会　長	道永　幸典(56)	
副会長	小森田憲繁(46)	伊東　信一郎(49)
	橋本　　上(59)	
事務局長	大坪　　稔(H7)	
監　事	貞刈　厚仁(52)	柴田　祐二(59)
顧　問	進谷　庸助(35)	石橋　英治(36)
	池田　弘一(38)	籾井　勝人(40)
	秦　　喜秋(43)	杉　　哲男(43)
	貫　　正義(43)	

（理　事）

本　部	道永幸典会長	大坪稔事務局長
	大石桂一研究院長	丑山優名誉教授
大　学	岩田健治教授	清水一史教授
	鷲崎俊太郎准教授	潮﨑智美准教授
東京支部	伊東信一郎支部長	富井順三副支部長
	吉元利行副支部長	大坪勇二事務局長
関西支部	小森田憲繁支部長	太田光一副支部長
	中野光男副支部長	谷村信彦事務局長
福岡支部	橋本上支部長	貞刈厚仁副支部長
	平井彰副支部長	髙木直人副支部長
	村上英之副支部長	内村芳郎副支部長
	縄田真澄事務局長	

（評議員）

市村　昭三（元教官）　清水　一史（現教員）

東京支部と関西支部の理事、福岡支部の評議員の方々は、本部の評議員と兼務。

各支部の役員

東京支部……

支部長	伊東信一郎(49)	
副支部長	富井　順三(50)	吉元　利行(53)
顧　問	池田　弘一(38)	籾井　勝人(40)
	秦　　喜秋(43)	杉　　哲男(43)

監　事　中楯　潔(50)

理　事　三輪　晴治(35)　古野　孝志(55)
岩中　雄次(63)　市村　譲(H6)
弥永　邦夫(H7)　上田　純也(H8修)
岩貝　和幸(H15)　青柳　未央(H16)
境　悦史(H17)　土公　文平(H17)
宮本　傑(H17)　稲波　祥子(H18)
亀井　祐輔(H20)　日下部清香(H20)
中村　龍太(H24)　水田　晃斉(H24)
上妻　諒子(H27)　神路祇　優(H27)
嶋田　直人(H27)　瀬藤　亮太(H27)
美川　優太(H28)　宍田　莉菜(H28)

事務局長　大坪　勇二(S63)

事務局次長　川原　晃(54)　林　秀信(H3)
原山　泰之(H5)　竹之下一也(H24)

関西支部……

支部長　小森田憲繁(46)

副支部長　太田　光一(46)　中野　光男(50)

顧　問　石橋　英治(36)

事務局長　谷村　信彦(H3)

事務局長代理　清丸　泰司(H2)

会　計　平山浩一郎(H8)

監　事　久保　隆二(49)
※以上の方は理事を兼任。

理　事　跡部　千春(44)　甲斐　琢己(44)
園田　一蔵(49)　佐藤　敏弘(50)
中野　善文(51)　古賀　英基(53)
冨山　幸三(56)　片山　基之(57)
川上　寛(58)　斉藤　浩志(60)
齊藤久美子(62修士)　長野かおり(H元)
松浦　弘典(H元)　安藤　由紀(H2)
北村　英照(H3)　川島　満(H4)
権藤　健太(H4)　松延　篤(H4)
向　勇一郎(H5)　上田　純也(H8修士)
藤川　昇悟(H8)　凌　雲翔(H16)
福本　翔悟(H20)

福岡支部……

支部長　橋本　上(59)

副支部長　貞刈　厚仁(52)　平井　彰(55)
髙木　直人(57)　村上　英之(58)
内村　芳郎(60)

事務局長　縄田　真澄(62)

監　事　森　恍次郎(45)　三浦　正(54)

評議員(＊は運営委員)
進谷　庸助(35)　沖　弘隆(41)
右田　喜章(42)　貫　正義(43)
一丸　孝憲(44)　鶴川　洋(45)
森　恍次郎(45)　吉井　勝敏(48)
岩崎　俊彦(49)　光富　彰(51)
工藤　重之(52)　貞刈　厚仁(52)
志村　恭子(52)　綾部　正博(53)
岡田　裕二(53)　境　正義(53)
吉村　展子(53)　小川　重巳(54)
＊嶋田　正明(54)　＊三浦　正(54)
＊平井　彰(55)　藤本　淳一(55)
池上　恭子(56)　道永　幸典(56)
米村　健史(56)　楠　雅之(57)
＊髙木　直人(57)　藤野　直子(58)
＊村上　英之(58)　＊柴田　祐二(59)
友池　精孝(59)　橋本　上(59)
吉留　郁(59)　＊廣川　昌哉(60)
内村　芳郎(60)　田中　和教(61)
高本　英一(62)　＊縄田　真澄(62)
白水　清隆(63)　＊筬島　修三(H元)
＊田川　真司(H2)　山崎　正良(H2)
＊重吉　二憲(H4)　宇出　研(H5)
＊森永　洋昭(H5)　＊石橋　治己(H6)
＊角　聡(H6)　＊山崎　浩(H7)
＊沖本　浩司(H8)　＊松田　和俊(H9)
仲　義雄(H10)　＊宮崎　真吾(H11)
＊安藤　大輔(H12)　＊藤吉　由貴(H14)
＊森　大輔(H16)　＊山本　裕介(H19)

……

広島地区　佐藤　敬(23)　白石　順一(34)

大分地区　高山泰四郎(39)

経済学部同窓会 創立50周年記念寄付金

寄付者様ご芳名（五十音順・敬称略）

ご寄付いただいた方々のお名前と卒年を、匿名希望の方を除き掲載させていただきます。
心より感謝申し上げます。

名　前	卒年
兒玉　正憲	旧教員
逢坂　　充	旧教員
東定　宣昌	旧教員
丑山　　優	旧教員
河野　哲夫	
中島　俊介	S28
谷　喜久男	S28新
本村　愼一	S29新
伊東　博二	S30
奥田　　勉	S30
鹿毛　孝男	S30
佐藤　和夫	S32
尾花　　剛	S33
福井栄三郎	S34
森　　重厚	S34
川島　順和	S35
永渕　哲夫	S35
故 藤田暁男	S35
山田　　勉	S35
荒木　一彦	S36
飯田　幸政	S36
島上　清明	S36
喜田川明純	S37
黒田　　馨	S37
田中　樟三	S37
永松　一之	S37
古川　　望	S37
外園　一彦	S37
柴田　康之	S38
曽根崎和夫	S38

名　前	卒年
宮永喜久生	S38
南園　克己	S39
山本　英昭	S39
井上　宣孝	S40
田中　　寛	S40
津野　雅秀	S40
小迫田浩司	S41
花田　健司	S42
坂田　幹彦	S43
宗　　芳宏	S43
吉原　　清	S44
鶴川　　洋	S45
富田　敏徳	S45
福山　雅文	S45
眞子　政光	S45
植松　繁規	S46
太田　光一	S46
小松　裕利	S46
小森田憲繁	S46
中野健二郎	S46
藤田　和子	S46
久留　和夫	S47
日髙　正照	S47
南里　一夫	S47
三縄隆一郎	S47
釘宮　正則	S48
原田　和郎	S48
馬場　　潔	S48
諸熊　建次	S49
山口　政二	S49

名　前	卒年
木元　　正	S50
中楯　　潔	S50
廣川　尚紀	S50
長　　宜也	S52
工藤　重之	S52
坂本　俊夫	S52
貞刈　厚仁	S52
佐々木龍彦	S52
佐藤　　淳	S52
下山　満寛	S52
岡田　裕二	S53
古賀　英基	S53
嶋田　正明	S54
足達　　裕	S55
藤本　淳一	S55
古野　孝志	S55
蓮田　　尚	S56
楠　　雅之	S57
浜崎　光敏	S57
廣瀬　　淳	S57
徳丸　一平	S58
橋本　　上	S59
山元　和浩	S59
内村　芳郎	S60
松本　隆典	S60
西田　　智	S61

名　前	卒年
大坪　勇二	S63
佐藤　秀夫	S63
白水　清隆	S63
白井　宏和	H元
塩谷　康弘	H2
長澤　宏和	H2
権藤　健太	H4
菅原　健一	H5
田邊　晴康	H5
山本　淳一	H5
岡部　麻子	H6
外園　雅大	H9
平野　大輔	H11
久保山勝予史	H14
宮城　勇人	H14
野木森　稔	H16
本条　　亮	H17
酒見　寿代	H18
宮本　信治	H22
水島多美也	R2
前泊　朝日	R4
松原　武志	R4
馬場羽香奈	R5
島　　貴哉	2年生
森崎　　涼	2年生
諸隈　太朗	2年生

令和５年９月末現在

寄付金額 1,859,000円　寄付者数 132名
累計：寄付金額 4,136,000円・寄付者270名
（目標額　1,000万円　令和８年３月末まで）

藤田暁男様（S35年卒）のご遺族のご厚意で寄付をいただいています。
心よりご冥福をお祈りするとともに御礼申し上げます。

九州大学経済学部同窓会歴代会長

初　代　田中　　定氏（昭和50年10月４日～）（３期８年）
第２代　森下　　弘氏（昭和58年２月４日～）（１期３年）
第３代　岡野　正實氏（昭和61年10月24日～）（２期６年）
第４代　谷川　大介氏（平成４年10月９日～）（１期１年）
第５代　渡邉　彦士氏（平成５年７月７日～）（１期３年）
第６代　福岡　道生氏（平成８年10月11日～）（１期３年）
第７代　吉田　清治氏（平成12年２月10日～）（１期２年）
第８代　森山　靖章氏（平成14年５月31日～）（１期３年）
第９代　平山　良明氏（平成17年７月７日～）（１期３年）
第10代　池田　弘一氏（平成20年７月７日～）（２期６年）
第11代　貫　　正義氏（平成26年７月７日～）（３期９年）
第12代　道永　幸典氏（令和５年７月７日～）

同窓会からのお願い

同窓会会費の納入をお願い致します。

会費は、終身会費（45,000円）と普通会費（３年間分4,500円）になっております。
終身会費は一括払いと分割払いとがあります。ご都合のつくときにご協力よろしくお願い致します。

①終身会費	一括	45,000円
②　〃	３分割	15,000円×３回（1.5年間で納入完了）
③　〃	６分割	7,500円×６回（３年間で納入完了）
④普通会費	３年間分	4,500円ずつ（11回・49,500円の納入で完了）

◎平成18年（2006年）３月末日までに旧同窓会規定の終身会費を既に納入頂いております皆様は、そのまま新同窓会規約の終身会員に移行しております。
◎従来の普通会員として今まで振り込まれた合計金額と、49,500円との差額を、今後何回かの分割払い、または一括払いで払い込まれた場合も、終身会員に移行となります。
◎終身会費を分割払いにされます方は、半年毎に３回又は６回続けてお振り込み頂きますようお願い致します。
◎会費納入や住所変更等のデータは、令和５年９月30日現在で集計しました。

住所など身辺の事情に変更が生じましたら、すみやかに下記同窓会事務局までご連絡ください。

九州大学経済学部同窓会事務局　（開室：平日の月・火・木・金　10時～17時）
〒819－0395　福岡市西区元岡744　九州大学経済学部内
TEL 092-802-5561／FAX 092-802-5560／E-mail：dosokai@econ.kyushu-u.ac.jp
経済学部同窓会ホームページ　http://koyukai.kyushu-u.ac.jp/alumni/4

経済学部同窓会の財政は変わらず厳しい状況です。
是非共、ご寄付、協賛広告のご協力をお願い申し上げます。
お申し込み、お問い合わせは、上記事務局までご連絡ください。